組織化・国際化・勝てる集団作りのために

㈶日本ハンドボール協会常務理事　平岡 秀雄
（総務・国際・がんばれハンドボール10万人会担当）

＜日本協会担当業務＞

1997年に熊本で開催された世界選手権大会を最後に、日本協会の直接的な業務担当から離れていましたが、6月の評議委員会での承認を受けて、総務、国際及び、がんばれハンドボール10万人会サポート会の担当常務理事となりました。

＜オリンピック予選　神戸＞

常務理事に就任早々、オリンピックアテネ予選が神戸で開催され、総務、国際関係の担当として大会運営にも参加することが出来ました。久しぶりに韓国に負けない試合をするなど、日本復活の兆しを見ることが出来ましたが、惜しいところでアテネの切符を逃してしまいました。

今回はアテネ予選期間中に国際ハンドボール連盟（IHF）の理事会が開催され、労力も2倍になりましたが、兵庫県協会との連携で無事乗り越えたことは、今後の大会運営にとって大きな財産を得たと考えます。

＜総務担当と日本協会規程＞

総務担当として「財団法人　日本ハンドボール協会」の規程集を、現在の委員会組織等と整合性のある内容に改定したいと考えています。現在の協会規程は、平成11年度に改定されていますが、その後の協会組織の変更に伴う規程の改定が進んでいないからです。また、各委員会規程も再確認し、各委員会の議事録が協会の機関誌に掲載され、日本協会の運営状況が全国に伝わるようにしたいと考えています。

＜国際担当関係＞

本年度より東アジアハンドボール連盟（EAHF）が設立され、アテネ予選時にもEAHF会議が催されるなど、その活動が始まりました。国際担当として、世界ハンドボール連盟（IHF）やアジアハンドボール連盟（AHF）の活動と同様に、その活動を支援できるよう国際委員の方々や協会事務担当者と協力して行きたいと考えます。

＜がんばれハンドボール10万人会＞

「がんばれハンドボール10万人会」サポート会は、10万人会事務局が中心となり推進されてきた事業ですが、今後は担当理事として、より強力に事業を推進できるようにしたいと考えます。具体的には、「がんばれハンドボール10万人会」サポート会員を倍増させたいと考えています。ヨーロッパでは観客席がコートフロアと同じ高さから始まり、手の届くところで選手がプレーし、選手の汗が飛んでくるほどです。日本の体育館の大半が2階席からの観戦となるのと比較すると、選手との一体感に大きな隔たりがあります。

アテネ予選（神戸）では、観客席の最前列に「がんばれハンドボール10万人会」サポート会員及びJHA関係の会員優先席を設けて日本チームの応援を仰ぎましたが、今後は日本リーグや全国大会などでも会員優先席を設けるなど、サポート会員の方々にハンドボールを楽しんでいただける環境作りを提案出来ればと考えています。

会員の方々の意見やアイデアを歓迎します。日本協会までお寄せください。

アテネオリンピックアジア予選：神戸

残念、一歩届かず、しかし確かな手応え

2003年アテネオリンピック アジア予選 兵庫／神戸大会（主催：アジアハンドボール連盟（AHF）、主管：（財）日本ハンドボール協会（JHA）、アテネオリンピックハンドボール競技アジア予選兵庫・神戸大会組織委員会、兵庫県ハンドボール協会（HHA）、後援：文部科学省、外務省、（財）日本オリンピック委員会、（財）日本体育協会、兵庫県、兵庫県教育委員会、（財）兵庫県体育協会、神戸市、神戸市教育委員会、（財）神戸市体育協会、（財）神戸市公園緑化協会、NHK、サンテレビジョン、読売新聞社、神戸新聞社、近畿ハンドボール協会、神戸市ハンドボール協会、協賛：（株）アシックス、（株）モルテン、本田技研工業（株）、大崎電気工業（株）、湧永製薬（株）、樹の恵販売（株）、全日本空輸（株）、キリンビール（株）、キリンビバレッジ（株）、日本鋪道（株）、伊丹産業（株）、（株）竹中工務店、トヨタ車体（株）、富士ゼロックス（株）、味の素（株）、オムロン（株）、大同特殊鋼（株）、日本ハンドボール協会各加盟団体）が、2003年9月23日（火）～28日（日）まで、兵庫県神戸市・グリーンアリーナ神戸を会場に開催された。参加国は男子、日本、韓国、中国、チャイニーズタイペイ、女子は日本、韓国、中国、カザフスタンで、総当たりのリーグ戦でオリンピック出場の1枚の切符を競い合った。男子は2勝1分（得失点差）で韓国、日本は同じく2勝1分であったが得失点差でオリンピックの出場権を得ることは出来なかった。女子は2勝1分で韓国を振り切った中国がアテネオリンピックの出場権を獲得した。

最終順位

【男子】 1位　韓　国　2位　日　本　3位　中　国　4位　チャイニーズタイペイ
【女子】 1位　中　国　2位　韓　国　3位　カザフスタン　4位　日　本

試合結果

【大会第1日　9月23日（火）】

<男子第1戦>	日　本	26（12- 9，14-11）20	チャイニーズタイペイ
<女子第1戦>	中　国	21（14- 7， 7-13）20	日　本

【大会第2日　9月24日（水）】

<男子第2戦>	韓　国	22（ 8-11，14-11）22	日　本
<女子第2戦>	韓　国	24（12- 9，12-13）22	カザフスタン

【大会第3日　9月25日（木）】

<男子第3戦>	中　国	36（17-13，19-11）24	チャイニーズタイペイ
<女子第3戦>	中　国	19（10- 9， 9- 8）17	カザフスタン

【大会第4日　9月26日（金）】

<男子第4戦>	韓　国	40（21-12，19-15）27	チャイニーズタイペイ
<女子第4戦>	韓　国	24（14-16，10- 8）24	日　本

【大会第5日　9月27日（土）】

<男子第5戦>	日　本	31（15-10，16-14）24	中　国
<女子第5戦>	韓　国	21（10- 9，11-12）21	中　国

【大会第6日　9月28日（日）】

<男子第6戦>	韓　国	33（14- 7，19-14）21	中　国
<女子第6戦>	カザフスタン	24（ 9- 9，15-13）22	日　本

日本チームの戦いの軌跡

日本初戦を飾る!!

(男子：９月23日　対チャイニーズ・タイペイ戦)

試合開始時から日本は０－６ディフェンス、チャイニーズタイペイは、１－２－３でディフェンス。互いに速攻で１－１とした後からは、チャイニーズタイペイは日本を攻めあぐみ、一方日本は順調に得点を重ね19分には７－２となるが、その後、日本は突如リズムを崩し、22分には７－７の同点となる。しかし、日本はラスト５分の３点連取等により、前半は日本が12－９の３点差をつけて終了した。

後半に入っても、一進一退の攻防を繰り返すが、日本は見事なコンビネーションプレイで後半20分には21対15とリードする。その後は日本が落ち着いたゲーム運びで　ディフェンスを引き締め、初戦を鮮やかに飾った。

(兵庫県ハンドボール協会：岡部清和)

日本 惜しくも韓国と引き分ける！

(男子：９月24日　対韓国戦)

日本のスローオフで試合開始、開始13分まで５対５のタイスコアーで進む。その後、日本の速攻、中川のロング・シュートが決まり、リードする。そのままリードした状況で一進一退の攻防を繰り広げ、３点リードのまま前半を終了した。

後半開始５分で同点に追いつかれるが、日本も踏ん張りを見せ、その後は、韓国は、ユン・キョシンのロング・シュート、日本は中川、宮崎のロング・シュートと一歩も譲らぬ攻防が続く。日本は、20分から田場を投入し、流れを変えようとするが、そのまま、１点を競う白熱したゲームが展開される。残り、３秒での日本のフリースローも宮崎がシュートを狙うも同点で終了。　(兵庫県ハンドボール協会：山本忠志)

日本快勝、中国を下すも明日の結果待ち

(男子：９月27日　対中国戦)

会場を埋め尽くす日本の応援団の大歓声の中、試合開始。互いにやや固い立ち上がりから、まず中国が長身を生かしたポストプレーでリードを広げた。日本はＧＫ坪根の好キープとサイドの下川の体を張ったプレーで10分には５－４と逆転する。その後も日本は両サイドをいかした多彩な攻め、７ｍスローを広政が確実に決め、ディフェンスもＧＫ陣の活躍などで得点差をキープ、前半を15－10の５点差で終えた。

後半に入り、中国はステップシュート等を使い反撃を試みるが、日本ディフェンス陣は落ち着いてこれに対応、攻めては内田、下川の両サイドが、セット、速攻と活躍。残り９分には宮崎の速攻が相手ＧＫと接触しながらもシュートを決めると、その後池辺も続けて得点、得点差を10点とした。しかしその後は中国は７ｍスローを着実に決めるなどしてなかなか得点差が開かない。最後はノータイムの笛と同時に宮崎のゴールが決まるも、後半の得点差はわずかに２点。結局31－24で試合を終了し、オリンピック出場権の切符は明日の中国対韓国の結果待ちとなった。

(兵庫県ハンドボール協会：岡辺清和)

日本、追い上げるも、あと１歩届かず

(女子：９月23日　対中国戦)

立ち上がりから両チームともに体を張ったディフェンスにより、警告退場が目立った。互いに決め手がないスタートであったが、開始15分後から中国の速攻が決まりだし、着実に点を重ね25分には12対４と８点のリードを奪われた。日本もその後10番センターの山田を中心に果敢に攻めたが、中国ディフェンスを崩すことができず、14対７で前半を終了した。

後半は、開始から日本の７番坂元、３番藤浦のディフェンスがさえ日本のペースで試合が進み、後半12分頃には、16対15の１点差まで追い上げた。その後も一進一退の攻防が続き、結局21対20の１点差で惜しくも涙を飲んだ。

(兵庫県ハンドボール協会：神野利雄)

日本、健闘むなしく！痛恨のドロー

（女子：９月26日　対韓国戦）

立ち上がり、オーバー・ステップ等ミスが目立つ韓国に対し、日本は№11早船のミドル・シュート等で着実に加点し、前半10分で６対３と日本は３点のリードを奪った。しかし、韓国も、ポスト攻撃や速攻等で徐々に差を縮め、15分過ぎには、８対８のタイスコアーにまでこぎ着けた。その後は、一進一退の攻防が続いたが、やや日本が優勢となり、16対14と日本が２点リードで、前半戦を終了した。

後半は、動きの良くなった韓国が、開始から８分で５連取を決め、一気に主導権を握った。しかし、日本も№10山田のブラインドからのシュートや№３藤浦のポストシュート等で必死に食い下がり、後半26分には№５田中のカットインシュートで23対23と同点に追いついた。そして、最後の頑張りを見せるも24対24のドローで終了した。

（兵庫県ハンドボール協会：神野利雄）

日本、健闘するも一歩及ばず

（女子：９月28日　対カザフスタン戦）

立ち上がり日本がシュートをはずすや、カザフスタンは３番ゾーリナのポストプレーで７ｍスローを誘い、14番イェグノヴァが確実に決めるというパターンで前半10分で４－１とリード、主導権を奪った。その後日本は手渡しプレーをまじえたセットプレーで得点するも、カザフスタンのポストプレーを守りきれず、なかなか差が縮まらなかった。開始20分後から日本はディフェンスラインを上げる一方、カザフスタンはカットインプレーで対抗。そして前半終了直前、カザフスタンの緩慢なプレーに対して６番大石の速攻が決まり９－９の同点で前半を終えた。

後半になるとゲームは一気に白熱し、スピーディーな展開で両チーム得点を重ねる好ゲームとなった。しかし、日本の６番大石が３回目の退場で失格のあと、終了５分前には７番坂元が負傷退場。日本は無念のタイムアップの笛を聞いた。

カザフスタンGKトラブニコバの好セーブと、日本の健闘が印象的であった。　（兵庫県ハンドボール協会：岡辺清和）

大会トピックス

日本ハンドボール界悲願のオリンピック出場に向けて地元神戸をはじめ各方面の力が結集したのもこの大会の特徴です。以下に大会期間中のトピックスを紹介致します。

◆ウェルカムパーティー

９月22日（火）19：00－20：30、神戸のシーサイドホテル舞子ビラにおいてウェルカムパーティーが開催された。司会は白井アナウンサー、通訳（英語）平賀とみ子さん、そして（財）日本ハンドボール協会渡辺佳英会長の開会の辞で開会された。次いで主催者の挨拶としてAHF代表アナンド専務理事、歓迎の言葉として兵庫県教育長の武田政義氏、そして（財）日本オリンピック委員会市原則之常務理事（日本協会副会長）が乾杯の音頭をとった。

歓談・会食の間は、セレモニーとして、昨年のサッカー・ワールドカップでオープニングを飾った松村組の和太鼓（写真①…以下の写真は５、６頁に掲載）が披露された。明日から始まる試合に備えて、今日は早めに会を切り上げましょうとのご発声で歓談、会食は中断。閉式の辞を（財）日本ハンドボール協会山下泉副会長が述べられ、会は幕を閉じた。

◆会場内に響き渡る応援

日本戦の会場は大いに盛り上がった。「ムササビクロスカップ」参加の実業団、大学生チームが応援席で声援を送る。地元小、中、高校生も多数会場に足を運び選手達を応援した。特に大同工業大学学生（写真②）はトランペットや太鼓などの鳴り物で会場の応援を盛り上げ、地元開催の力で選手の力を大いに奮い立たせた。

ハーフタイムのアトラクションで会場を沸かせた兵庫県立須磨東高校ダンス部の皆さんは試合中、コートサイドから選手を応援した（写真③）。また、私立親和女子高校３年生有志一同による「よさこい」が披露されました。

会場アナウンスでは熊本世界選手権以来、日本リーグプレーオフでもおなじみのＹＵＭＩさん、そして兵庫県の白井美代子さん（写真④）が大いに会場を盛り上げてくれた。

◆長嶋茂雄氏、男女ナショナルチームを激励

大会初日の23日、ＪＯＣエグゼクティブアドバイザー長嶋茂雄氏（読売巨人軍名誉監督）が会場を訪れ、男女ナショナルチームを激励した。（写真⑤）

◆各種シンポジウム・委員会開催される

トップレフェリー研修会（参加者120名、講師：スタインバッハＩＨＦ審判長、ハンソン、オルソンＩＨＦ指名レフェリー（スウェーデン））（写真⑥）、コーチ講習会（参加者50名、講師：ムスタファＩＨＦ会長、ミュレマターＩＨＦ競技運営委員長、田中茂日本ハンドボールリーグ機構ＧＭ）、学校体育研究会、指導委員会などが開催された。なお、研修会等の内容については次号以降に詳細を報告します。

◆ＩＨＦ理事会開催される

11月に開催される総会に向けての国際ハンドボール連盟（ＩＨＦ）の理事会が９月26、27、28日の３日間に渡って舞子ビラにおいて開催された。理事会が日本で開催されるのは熊本（1997世界選手権開催時）に続いて２回目。

日本協会ではＩＨＦ、ＡＦＨの役員を招待しての歓迎レセプションを開催し国際交流を行った（写真⑦）。

◆ムササビ・クロスカップ開催される

ステージ1：9月23日（火）・24日（水）、ステージ2：9月26日（金）─28日（日）の日程で「ムササビ・クロスカップ」がグリーンアリーナを含む神戸市内体育館行われた。この大会は日頃対戦する機会のない実業団と大学生が戦う画期的な大会。（写真⑧）

全日本実業団ハンドボール連盟男子5チーム（大同特殊鋼、ホンダ熊本、トヨタ車体、ホンダ、大崎電気）、女子3チーム（オムロン、香川銀行、北國銀行）、全日本学生ハンドボール連盟男子3チーム（金沢工業大学、中部大学、大同工業大学）、女子5チーム（天理大、大阪体育大、関西外語大、国士舘大、愛媛女子短大）が参加した。主催は（財）日本ハンドボール協会、アテネオリンピックハンドボールアジア予選神戸実行委員会。

◆中学生ハンドボール教室開催される

9月27日（土）10時30分から、会場メインアリーナに於いて中学生対象のハンドボール教室が開催され、神戸市内の中学生男女49名が参加した。主催は兵庫県ハンドボール協会、神戸市、（財）神戸市公園緑化協会、特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブ。後援は神戸市教育委員会、（財）神戸市体育協会、運営は特定非営利活動法人神戸アスリートタウンクラブがおこなった。講師は本田技研工業㈱ハンドボール部のスタニスラフ・クリチェンコ選手（ロシア代表としてシドニーオリンピックで金メダル獲得）、荒木誠司ヘッドコーチ。（写真⑨）

◆メディアも注目

オリンピック出場がかかった神戸大会会場には多くのメディアが訪れた。神戸サンテレビ、スカイA、テレビ神奈川で男女各1試合ずつ放送され、さらに急遽テレビ神奈川で男子1試合が追加放送された。また、各局テレビのスポーツコーナーでも試合の様子が放映された。新聞紙面にも写真入りで大きく報道、掲載された。（写真⑩は多くの報道陣が訪れた記者会見風景）

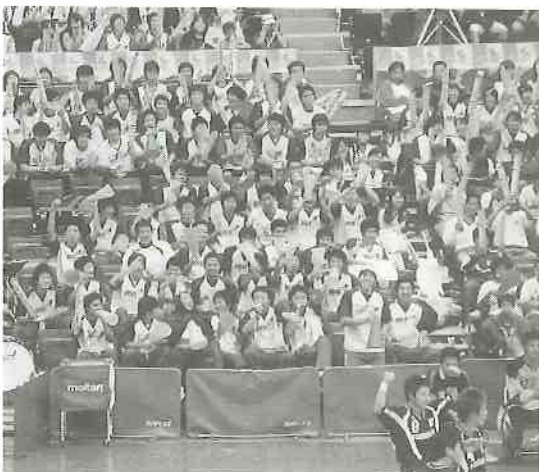
また、会場からはラジオ短波では宇野和男氏（フリーアナウンサー）による結果速報が毎日放送された（写真⑪）。

◆表彰式・フェアウエルパーティー

大会終了後、西神オリエンタルホテルに於いて表彰式が行われた。オリンピック出場権を得た男子韓国、女子中国をはじめ選手、役員が一同にそろい、大会とは異なった和やかな雰囲気でお互いの健闘をたたえ合った。（写真⑫、⑬）

写真①：ウェルカムパーティー時アトラクション（村松組の和太鼓）

写真③：兵庫県立須磨東高ダンス部の応援

写真④：会場アナウンスのＹＵＭＩさんと白井さん

写真②：大同工業大学の応援

写真⑤：ロッカールームで男子ナショナルチームを激励する長嶋氏

写真⑥：トップレフェリー研修会

写真⑦：日本協会による歓迎レセプション

写真⑧：ムササビクロスカップ（グリーンアリーナ・サブアリーナ）

写真⑨：中学生ハンドボール教室で指導するクリチェンコ選手

写真⑩：試合後の記者会見

写真⑪：ラジオ短波、放送中の宇野和男アナウンサーと柏崎真理子アナウンサー

写真⑫：優勝した女子中国チームに金メダルを渡す渡辺会長

写真⑬：レセプション風景。
中央は鶴保庸介日本ハンドボール協会顧問、右端は岡田茂夫兵庫県ハンドボール協会会長

第8回ジャパンオープントーナメント兼
第59回国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会

表記大会は男子の部が平成15年8月11日（日）～14日（木）まで埼玉県八潮市、吉川市で、女子の部が平成１５年8月12日（月）～14日（木）まで埼玉県三郷市で開催された。男子は香川クラブがＨＣ岡山を破り３年連続6回目の優勝、女子は MIE. violet IRIS がＨＣ岡山を破り２年連続２回目の優勝を飾った。詳しい結果はスコアールームに掲載。

①地元の声（八潮市）

ジャパンオープンハンドボール大会を終えて

埼玉県八潮市企画部参事兼
国体推進課長　高橋　登

第8回ジャパンオープンハンドボール大会は、彩の国まごころ国体のリハーサル大会を兼ねて、本年８月11日から14日までの４日間、八潮市、三郷市、吉川市で開催され、そのうち八潮市内では市立鶴ヶ曽根体育館及び市立大原中学校体育館の２会場で開催した。大会の準備と運営については、日本ハンドボール協会及び埼玉県ハンドボール協会のご指導をいただきながら進めさせていただいたところである。今大会の本来の目的である「準備の検証とＰＲ」がほぼ達成され、大勢の観覧者があった。しかし初めてのことゆえ至らない点も多く、スタッフからもいろいろと反省点が送られてきており、来年への課題も含め次のように総括する。

1. 大会の準備と運営について

①準備について

事務局（企画部国体推進課）において準備を進めてきたが、本格的には本年５月１日、今大会の実施本部が設立され、本部長（助役）以下224人の体制で打ち合わせを重ね準備を進めてきた。限られた日程の中で各所属の部・班ごとに同時並行で説明会を行い本番に臨んだが、さらに具体的な打ち合わせの必要性も感じた。また本番間際まで準備が続いてしまったが、来年はなるべく早めに準備をできるよう努力したい。

なお、５月４日（日）には日本ハンドボール協会の江成常務理事ほか役員の皆様と、6月15日（日）には、埼玉県ハンドボール協会の上久保理事長ほか役員の皆様と、それぞれ打ち合わせさせていただき、いずれも顔合わせを含め、貴重なご意見、ご提言をいただいたことが、大会運営の準備を進めるために大きく役立った。

②仮設施設・テント等の対応

本市のメイン会場（鶴ヶ曽根体育館）は総合体育館ではなく、また中学校の体育館も会場として使用したため、試合会場付近の仮設施設（プレハブ）・テントを多く設置することになった。なお、中学校体育館は冷房施設がないので、鶴ヶ曽根体育館と条件を合わせるため、臨時で冷房設備を配置した。

③ボランティア活動

公募のボランティアは限られた人数であったため、市体育協会の全面協力をいただき、市民ボランティア375人のお力をいただきながら運営した。

花いっぱい運動には、従来からこの運動を進めていた市コミュニティ協議会と連携を図りながら行った。

クリーン作戦は、従来から市内の拠点ごとに実施しているクリーンプロジェクトと協議した。

2. 参加選手への対応

来年の民泊を想定しながら、参加各チームに「チーム担当」の職員を配置し、到着前から連絡を取りながら受け入れ態勢を作り、到着後はチームと国体事務局など現場との橋渡し役として活躍してもらったところ、各チームにとても好評であった。担当によっては、試合の応援もそのチームのユニフォームをいただいて応援させていただいたり、試合終了後の夜の懇親会にもお招きいただいて、深夜にいたるほど内容の濃い懇親を深めさせていただいた、という報告があった。来年もチームのお世話をしながら、民泊を引き受ける町会、自治会とのパイプ役として機能してもらえることを期待している。

3. 運営上の課題

①３市及び協会との調整

今大会では八潮・三郷両市の主催であったが、両市の対応に一部ばらつきも出ていた。来年は吉川市が加わり３市で開催するため、なおさら調整することが多くあるので、３市の連絡調整はもちろんだが、協会を含んだ四者の連携を

密にしながら進めていきたい。

②駐車場の確保

事前に参加チーム用、役員用、観覧者用などの駐車場を用意しておいたが、実際には利用にばらつきがあり、本番の際はチーム数も異なるところから人数への対応や、雨天への対応を再検討する必要がある。

③民泊の実施

来年は成年男子・少年男子含めて40チームの民泊を実施することで、説明会を開催しており、市民ぐるみで進める国体として、今年とはかなり動きが変わってくる。民泊を円滑に進められるよう準備したい。

4.今後の抱負「ハンドボールのまちに」

今大会では、関係各位のご協力のおかげで、メイン会場の観覧席が424席のところ、開会式に246人、閉会式には584人、4日間の延べ観覧者数は両会場合わせて2,600人と、大変大勢のご観覧をいただくことができ、事務局として心から感謝している。

本市の多田重美市長は、国体終了後も引き続きスポーツが盛んなまちとなり、せっかくハンドボール競技を開催するのだから国体を契機に「ハンドボールのまち」を目指したい、と明言している。

事務局としても、今大会では市内全小中学校による「手作りのぼり旗」の作成など行っており、また市内すべての小学校が参加して行う「市長杯・教育長杯小学生ハンドボール大会」も開催している。

来年の本大会では民泊を成功させ、それを起爆剤として、今後市民と行政が「協働のまちづくり」を進めていきたいと考える。そして、この国体を通じ市民も市職員も誇りと自信をもつことにより、今後のまちづくりに結び付けていかれたらと思う。

今後も日本ハンドボール協会をはじめ関係機関のご指導をいただきながら、来年の国体を、何十年後にも語り継がれるような記念すべき国体とし、「ハンドボールのまち・やしお」と呼ばれるまちを目指していきたい。

②地元の声（三郷市）

「リハーサル大会」で得た経験を国体で生かせるように

三郷市国体推進室

三郷市は、埼玉県の東南端に位置し、都心から20km圏内にあります。東は江戸川を挟んで千葉県松戸市・流山市と、南は「フーテンの寅さん」で有名な柴又のある東京都葛飾区に接しています。大型の公団住宅や首都高・常磐道を結ぶインターチェンジ等が整備され、急速な都市化が進み、平成17年度には「つくばエクスプレス」（つくば～秋葉原間）が開通予定です。

当市では本年8月12日～14日にかけて、「ジャパンオープンハンドボールトーナメント（女子の部）」を、来年に控えた埼玉国体（彩の国まごころ国体）のリハーサル大会として開催しました。競技会場となる市総合体育館の会場設営が着々と開始された大会3日前、台風10号の影響により外での作業を翌日に繰り上げざるを得ない事態が生じ、沿道の歓迎装飾も心配されましたが、翌大会2日前には、県ハンドボール協会の方々による手際のよい競技コート等の準備が整うと、リハーサル大会の会場が、まさしくそこに完成していたのです。大会前日は、市職員の実施本部員を動員しての担当業務再確認と開・閉会式の式典練習。皆で士気を高め、大会の成功を祈りました。

国体推進室の有村英子さんと大会マスコット「コバトン」

会場全体をみて初めて分かる不具合等を調整し、多少の不安と期待の中、ついに迎えた大会当日。市民協力員と共に、全国

市民みんなで作る大会

から参加される選手や役員などの大会関係者そして応援の方々など多くの皆様をお迎えし、先催県で視察した時は知り得なかった運営側としての立場に立つと、多くの関係機関からご指導をいただきながら準備してきたことの一つひとつがようやく動き出したように思え、無性に感慨深くなりました。

大会期間中、交流広場（湯茶コーナー）は特に多くの人が行き交う賑やかな場所となり、応援の方々はもちろん参加選手と市民協力員とのちょっとした会話から出るお互いの笑顔が、実に微笑ましい場面に映り嬉しくなりました。

競技終了後には、観戦に来ていた地元の小中学生や一般の方が選手に駆け寄って、自分の持ち物やＴシャツ、帽子などにサインを求める姿に自然な交流の姿を見ることができ、来年の国体で民泊が諸事情につき実現できない当市では、やはり交流の場は限られてしまうものの、今回のような交流と笑顔がもっと見られるような場や機会を提供していくことも課題の一つと考えました。

準備に万全を期していたつもりが、大会が始まれば臨機応変な対応の連続。その後ろ盾となる競技関係者と市職員の実施本部員との密な連絡調整、市民協力員との情報周知と、この二つの流れがしっかりしていればより円滑な運営となり得るのだと思います。

まさに「リハーサル大会」というように、ここで得た経験から収集できた課題等を国体で活かせるように、今後も引き続き県協会のご指導のもと努めてまいります。そして、市民総参加の国体、心に残る国体でありたいと改めて感じています。多くの方々に支えられた大会でした。

男子優勝チームの香川クラブ

③男子優勝チームの声

大会を振り返って：勝ち続けるには理由がある

香川クラブ監督　大谷和彦

3年連続６回目の優勝を飾ることができ、これもひとえに大会関係者のおかげと、選手共々感謝しております。

今年は世代交代の年でありました。スターティングメンバーに名を連ねた選手を見てもわかる通り、これまで活躍したメンバーから大幅に入れ替わりました。そのため、新メンバーを中心とした練習や遠征を積み重ねてきました。しかし、練習開始当初から順風満帆というわけではなく、「何かが足りない」と感じていたのも事実です。

大会が近づくにつれ、周囲の心配をよそに足りない何かを求めるべく練習に励み、若手とベテランの力を限りなく、最大限に発揮することができれば、ひょっとしてと言うところまで力を伸ばすことができました。大会入りしてからも、負傷者、欠場者がで、ベンチ登録に頭を悩ませ、例年にない緊張感を持って試合に臨みました。しかし、どの選手もモチベーションが高く、ヤマ場と見ていた準決勝を乗り越えることができたのも、選手の意識の高さだと自負しております。

香川クラブは平成五年の東四国国体の強化に向けて創設され、現在では当時少年男子のメンバーが中心となっています。そして、その頃からはじめている活動スタイルが今なお受け継がれております。また、ＯＢを交えてのゴルフコンペなど、世代を超えての交流も盛んに行われています。

香川クラブの活動で特筆できることがあります。それは、社会人としてのモラルであり、上下関係のない役割分担(ボール係、洗濯係など）は、その代表的なものです。そして、試合を楽しみ、最後まで諦めない試合態度は、これまで何度も劇的な勝利へと結びついてきました。新しく入ってきたメンバーには、この精神を受け継ぎ、次の世代の選手達に「魅せるハンドボール」、「魅せられるハンドボール」を目指して欲しいと思います。

最後になりましたが、この紙面をお借りして、日頃から香川クラブの活動にご支援、ご協力頂いている関係各位に感謝を申し上げたいと思います。

高松宮記念杯
第44回全日本実業団ハンドボール選手権大会を振り返り

全日本実業団ハンドボール連盟理事長　粟屋敏則

【はじめに】

今大会を平成15年7月31日～8月3日に柏崎市及び柿崎町にて開催することにあたり、新潟県ハンドボール協会並びに、行政・教育・マスコミ等の皆様や特別協賛を戴いた日本ペイント様はじめ多くの協賛企業様に支えられ、盛大に開催され感動の内に閉幕できた事を、感謝しております。

さて、高松宮記念杯 全日本実業団ハンドボール選手権大会も44回を向かえ、今までの由緒ある功績を受け継ぎながら、2年前より新しいことへのチャレンジをしてまいりました。現在の日本スポーツ界は、大変大きな転換期になっているものと考えます。我々企業で維持している、企業スポーツの神話もすでに崩壊して幾年にもなり又、少子化による生徒のスポーツ離れが深刻化して、日本全体のスポーツへの感心が勝ち組と、負け組に大きく分けられてしまいそうな危機感さえ感じられます。

ハンドボール界も多分に洩れず、勝ち組に残れる保障はなく、より一層の施策を投入し打開する事が最重要課題となっています。それには、世界に通じる強い日本代表チームの育成、それを支える若年層の数及び質の向上、プラス全体を支えるサポーターの拡大にあると考えます。

近年ハンドボールの試合は、都市中心でのＴＯＰの大会開催や、日本リーグでのホーム＆アウェー方式による第３地区での開催の減少という状況において、日本国内の最高水準である実業団のプレーを中々観戦できないでいるのが指摘されていました。微力ではありますが、全日本実業団連盟では、高松宮記念杯全日本実業団選手権大会を一つのハンドボール界の縮図と考え、『観て喜び、応援して喜び、プレーして喜び』の３つの喜びを常に頭に描き大会開催をリードしてきました。

開催地の決定は、各県ハンドボール協会様の誘致希望を優先させ、日本全国平等に開催権をもっていただきました。全ての開催費用は全日本実業団連盟が負担し、県協会の皆様には観客動員と試合進行に集中していただき、微弱ではありますが、入場料収益の７０％を県協会様に還元するようにしてきました。一人でも多くのファンに巡り合え、３つの喜びの『観て』と『応援して』の２つを県協会様と実連で共創し、そのファンの中の一人でも多くがプレーに参加し、頂点である日本代表の道を目指す事が３番目の『プレーして』の喜びに繋がるものと確信しています。郷土の皆様との、共創をプライオリティーの一番に上げ、一緒に大会の成功を成し遂げることが、これからの、ハンドボールが勝ち組に残っていける重要な魂であると強く信じております。

【総　括】

写真提供・スポーツイベント社

今大会は、９月にアテネオリンピック予選があることで、従来９月開催を前倒しし、７月31日～８月３日までの４日間で、開催をする事になりました。日本代表の強化スケジュールを良く理解した上での選手派遣をしていただいた各チームには大変苦労をお掛けしまして、本当に感謝しております。これも、我々の念願でもあります、オリンピック出場を達成していく為の協力と考えます。

今年度の優勝は、男女とも連覇を成し遂げ、男子の大同特殊鋼（２年連続１２回目）、女子の広島メイプルレッズ（３年連続５回目）の皆様は感極まるものと察します。大変おめでとうございました。

試合の内容ですが、男子は日本代表が海外遠征で抜けチームの中心を欠きながらの大会でしたが、その穴を埋めるべくフレッシュな選手が頑張り試合は大いに盛り上がりをみせました。特に大同特殊鋼は、ＧＫを含めた堅いディフェンスで乗り切り、ＭＶＰにはＧＫでキャプテンの日原選手が受賞し、チーム状況をそのまま映し出した結果となりました。優勝の喜びを、冨本監督に聞いたところ、６月に金選手がチームに加わり昨年までのスタイルが変わる事を予期し、練習試合を多く積みゲームの中でコンビネーションを造りあげたのが勝因ではないかと分析をしていました。昨年は、17年ぶりに優勝でき喜びも格別であったが、今年は日本代表の松林選手の抜けた後を、若い選手が予想以上に活躍して埋めてくれた事は、連覇の難しさも含めこれからの大会への弾みもついて二重にうれしかったとコメントしてくれました。選手兼任の監督である、冨本監督の選手として出る幕がないくらいまとまった優勝でありました。

一方、女子は決勝リーグ戦でオムロンに手痛い一敗を喫しながら、底力を発揮して接戦をものにした、広島メイプルレッズが３年連続５回目の優勝を手にいたしました。優勝した、平田総監督にお話しを聞いたところ、面白いエピソードを明かしてくれました。それは、林選手が決勝リーグ戦である事を忘れ、オムロン戦に負けたら優勝はないものと勘違いしていて落胆していた所へ、平田総監督が明日頑張ろうと励まし

たら、明日勝てば優勝があるのかと気が付いたとの内幕を紹介してくれました。その開き直りが、ファイナルのシャトレーゼ戦にでて、見事優勝に結びついたようです。又、平田総監督は大会前より、持久力とスピードをつける為に2ケ月間みっちりウェートトレーニングをやった事も、優勝の大きな要因であったとうれしそうに話してくれました。とにかく女子は接戦の試合が多く、息づまる好試合の連続で観客が大いに沸いた大会となりました。

【次回開催に対して】

来年度は、既に高知県が名乗りをあげており、高知市を中心に2会場にて開催予定です。大会開催時期ですが、アテネオリンピックが8月下旬で終了する事と、日本リーグが3回戦総当たりになり、9月末よりのスタートが考えられる為、現状では9月8日からの開催を計画しています。

平成16年度の高知県開催の後の、平成17年度以降開催地が決まっていませんので、開催希望協会がありましたら、実連までご連絡願います。大会参加の選手がゲームで最高のパフォーマンスを発揮できる環境を整え、それを観てくださる多くのファンを拡大する為に、付加価値をつけた大会にするよう、これからも情報を収集して、極めの細かい計画を立案し、実行に移し再度現状を分析しつつハンドボール界の流れを良く観て、修正をかけながら行動に移していきたいと考えます。

これからも、ハンドボール競技が、勝ち組に残れるよう頑張りたいと思いますので、皆様がたのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

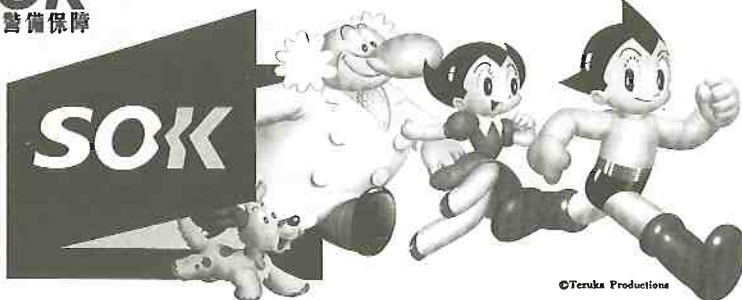
写真提供・スポーツイベント社

【成績結果】

【男子】		【女子】	
優　勝	大同特殊鋼（2年連続12回目）	優　勝	広島メイプルレッズ（3年連続5回目）
準優勝	ホンダ	準優勝	シャトレーゼ
第3位	湧永製薬	第3位	オムロン
第4位	大崎電気	第4位	北國銀行
第5位	ホンダ熊本	第5位	ソニーセミコンダクタ九州
第6位	トヨタ車体	第6位	MIE.Violet IRIS
第7位	アラコ九州		
第8位	北陸電力		
第9位	八光自動車工業		
第10位	大阪ガス		
第11位	豊田合成		

【個人賞】

【男子】			【女子】		
◆MVP	日原　一幸	（大同特殊鋼）	◆MVP	呉　成玉	（広島メイプルレッズ）
◆ベストセブン			◆ベストセブン		
GK	吉井　丈晴	（ホンダ）	GK	細谷　若菜	（シャトレーゼ）
CP	南川　裕隆	（大同特殊鋼）	CP	青戸あかね	（広島メイプルレッズ）
CP	金　性憲	（大同特殊鋼）	CP	杉本　絵美	（広島メイプルレッズ）
CP	斎藤　康貴	（ホンダ）	CP	林　五卿	（広島メイプルレッズ）
CP	鶴見　拓	（ホンダ）	CP	藤浦　美絵	（シャトレーゼ）
CP	古家　雅之	（湧永製薬）	CP	早船　愛子	（シャトレーゼ）
CP	豊田　賢治	（大崎電気）	CP	金城　晶子	（オムロン）
◆優秀監督賞	冨本　栄次	（大同特殊鋼）	◆優秀監督賞	林　五卿	（広島メイプルレッズ）
◆新人賞	中谷　哲也	（ホンダ）	◆新人賞	上町　史織	（北國銀行）

（試合結果についてはスコアルーム（p.25）に掲載）

平成15年度全国高等学校総合体育大会高松宮記念杯
第54回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

表記大会が、平成15年7月28日（月）開会式、翌29日から6日間に渡って、佐世保市体育文化会館、長崎県立佐世保西高等学校体育館、海上自衛隊平瀬体育館、海上自衛隊佐世保教育隊体育館、小佐々町スポーツセンターにおいて競技が行われた。大会結果は9月号に掲載済み。

全国高体連ハンドボール専門部の声

『平成15年全国高等学校総合体育大会高松宮記念杯 第54回全日本高等学校ハンドボール選手権大会』を終えて

（財）全国高体連ハンドボール専門部副委員長　河先　修（栃商高）

「長崎が君の鼓動で熱くなる」のスローガンのもと、平成15年度全国高等学校総合体育大会「2003年長崎ゆめ総体」が、「ひと・交流創造都市」である佐世保市民の熱烈な歓迎の中で盛大に開催され、数々のドラマを繰り広げながら成功裏のうちに大会を終了することができました。

大会を総括し報告するにあたり、長崎県高等学校体育連盟、長崎県ハンドボール協会、佐世保市実行委員会をはじめ、今大会開催に携わり、ご尽力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。また、「一人一役」で大会の準備や運営に携わっていただいた地元高校生の皆様のきびきびとした行動とさわやかな挨拶で、参加選手も最高のコンディションでプレーできたと感じております。

さて、開会式において（財）全国高体連ハンドボール専門部宇佐美幸彦部長が「高校生らしく、走って走って走りまくって、さわやかな風を観衆の皆様に与えてください。」と願われたとおりのゲームが毎試合続き、参加男女各48校96チームがそれぞれの持ち味を如何なく発揮し、高校日本一を決める大会にふさわしく、内容の濃い白熱したゲームが展開され、会場に詰め掛けた多くの観客を魅了することができたと自負しております。

男子決勝は共に初優勝を狙う、高校生ばなれした高さとパワーにテクニックを加味した、春の選抜大会キング興南高校（沖縄）に、小粒ながらスピードとコンビの総合力で立ち向かった小林工業高校（宮崎）との対戦になりました。興南の個々の選手の能力の高さに見る者は圧倒され、また高さに果敢に挑みコンビで得点を重ねる小林工業のプレーは観衆の目をコートに釘付けにしました。最後は1年生も含め個々の能力を十分に発揮した興南高校が栄冠を勝ち取ることになりましたが、スピーディーでダイナミックなゲーム内容と併せ、両チームの健闘に胸を熱くさせられるものがありました。

一方、女子は春の選抜大会クィーン小松市立高校（石川）に、3年連続で5度目の決勝進出ながら過去4度の決勝戦、いずれも1点差で涙をのんでいる夙川学院高校（兵庫）との対戦になりました。戦前の予想は、巧みな間合いから1対1でディフェンスを崩し、絶対的なエースのいる小松市立が優位にゲームを支配すると思われていました。しかし、夙川の積極的で動きの鋭いディフェンスに小松市立の攻撃が阻まれ、思うように加点できないのに対し、夙川は執念さえ感じ取られる思い切りのよいスピードにのった攻撃で着々と加点、悲願の初優勝。試合終了後のコート上で歓喜の輪が幾重にもでき、互いの健闘を称え合っている姿が印象的でした。

ベスト4に勝ち進んだのは、男子では伊奈高校（茨城）、浦和学院高校（埼玉）、女子では小松市立を後一歩まで追詰めた熊本国府高校（熊本）、暁高校（三重）でした。惜しくも1・2回戦で敗れたチームにも将来性のある優秀な選手が多く、大会6日間を通し連日ハイレベルなゲームが展開され好感の持てる大会となりましたことに感謝したいと思います。

今年はアテネオリンピック予選の年になります。日本ハンドボール界の悲願でもありますオリンピック出場が達成できますよう応援しております。また、今大会に出場した選手が2008年北京オリンピック大会で活躍できる選手に成長し、将来の日本ハンドボール界を背負っていけるよう、さらなる精進・努力を願ってやみません。そして、関係諸機関のご協力のもと、高体連ハンドボール専門部が一丸となり、今後とも多くのハンドボールを愛する若者が世界に羽ばたけるような環境作りをしていくことを誓い、ご報告にかえたいと思います。

地元　長崎県高等学校体育連盟の声

平成15年度全国高等学校総合体育大会高松宮記念杯 第54回全日本高等学校ハンドボール選手権大会回顧

長崎県高等学校体育連盟ハンドボール専門部委員長　石塚大河

50年に1度と言われる全国高等学校総合体育大会高松宮記念杯第54回全日本高等学校ハンドボール選手権大会を長崎県で開催できたことは、大変光栄に思っております。長崎県では10年前に開催が決定し、2年前より実際に活動が活発化しました。競技会場・練習会場の決定、役員・補助員の決定、競技役員・補助員の養成事業、予算決定、一人一役・支援校の決定、手作り記念品・草花装飾支援校の決定、吹奏楽・アトラクションの決定、式典関係の決定、節目によるカウントダウン式典、市内小学校による歓迎のぼり旗の作成、支援校によるゴミ箱作成、シャトルバスの運行決定、総合案内所の設置、市内案内看板の作成・設置等目まぐるしい日々が過ぎ去り、7月27日（日）の開会式前日を迎えました。

7月28日（月）約4,000人による開会式で幕が開き、1,338人の選手団の入場、前年度優勝校による優勝旗・杯の返還並びにレプリカ授与、（財）日本ハンドボール協会会長　渡邉佳英氏及び（財）全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部部長　宇佐美幸彦氏による挨拶や地元高校生による歓迎の言葉で選手を長崎へ迎えることができました。また、佐世保養護学校高等部による和太鼓、久田学園佐世保女子高等学校による郷土伝統獅子舞でさらに花を添えて大会を盛り上げました。

7月29日（火）より佐世保市体育文化館、長崎県立佐世保西高等学校体育館、海上自衛隊平瀬体育館、海上自衛隊佐世保教育隊体育館、小佐々町スポーツセンターの5会場6コートで競技が開催されました。大会のスローガンである、「長崎が君の鼓動で熱くなる」は生命の躍動感と目標に向かう強い意志を鼓動という言葉に込め、全国高総体に集う高校生の鼓動の高鳴りで長崎が熱くなってもらいたいという意味を込めて作られたものです。また2003年長崎ゆめ総体の大会愛称は、高校生にとって全国高総体に出場することは一つの目標であるとともにゆめでもあり、一人でも多くの人がゆめを実現し、一人でも多くの人にゆめを与えるような大会になってほしい気持ちを持って作られました。大会スローガン及び大会愛称のもと、競技は1回戦より白熱したゲームとなりました。

男子は優勝：興南高等学校（沖縄県）、準優勝：県立小林工業高等学校（宮崎県）、第3位:県立伊奈高等学校（茨城県）・浦和学院高等学校（埼玉県）。女子は優勝：夙川学院高等学校（兵庫県）、準優勝:小松市立高等学校（石川県）、第3位:暁高等学校（三重県）・熊本国府高等学校（熊本県）であり、男女とも初優勝でありました。また、他の試合も好ゲームとなり、応援にも熱が入っていました。

大会を盛り上げたのは、地元の教職員、生徒、市役所職員であり、雨の中・酷暑の中、車を誘導した駐車場係や輸送交通係、35度を越える体育館の中で選手が汗まみれになったコートをきれいにしたコート管理係、試合の結果を正確に記録したコート記録係、応援やチームへ結果を速報した記録係、チームや応援者を快く迎えた受付案内接待係、競技を盛り上げるため放送した放送係、選手の怪我へ対応した救護係、チームの昼食やサンプリングを笑顔で配布した弁当・サンプリング係、会場内の警備を担当した警備防災係、試合までのアップをお手伝いした練習会場係、会場を常に綺麗にした会場整備係、選手の賞状を心を込めて書きとげた筆耕係、全ての係りが来県されたチームが試合に集中できるように心がけました。その結果なのか、大会は救急車の要請が1件もなく終了できたこと。また、閉会式で財団法人全国高等学校ハンドボール専門部部長　宇佐美幸彦氏より、地元高校生の気持ちよい挨拶が感動したという言葉に、大会が無事終了できて良かったと思うとともにご協力いただいた県内役員・補助員・市役所職員へ感謝したい。また、協力することが大切だということ皆様に教えていただきました。

大会を終了するにあたり、全国より役員としてご協力いただいた財団法人日本ハンドボール協会、財団法人全国高等学校ハンドボール専門部、審判団の皆様へ心よりお礼申しあげます。

男子優勝チーム監督の声

夢の実現、多くの人とのめぐり逢いに感謝

興南学園　興南高等学校ハンドボール部監督　黒島宣昭

【優勝の喜び】

大きく高い「目標」「夢」であった、「全国総体での優勝」が実現でき率直に大変嬉しく思います。素晴らしい選手達にめぐり逢える機会をつくってくださった、小学校、中学

校の指導者のお陰であり、改めて感謝しています。又、学校関係者及びに父母会の並々ならぬバックアップ、ＯＢの皆さんの支援についても大変に感謝しています。そのように多くの皆さんの、お力添えがあったからこそ、史上５校目となる春夏二冠が達成できたものと思います。ありがとうございました。

【勝因と印象に残ったゲーム】

春の選抜大会が終わった時点で、「春と同じ型では、夏は勝てない」。夏までは、どのチームも仕上げてきますし、これまでに、夏の厳しさを幾度となく痛感してきたし、今年度も県大会から大変厳しい戦いになると思っていました。ところが、４月に新入生を迎えて見てみると戦力アップの手応えを確信しました。

大会では、即戦力として１年生とは思えない勝負度胸があり、ピンチを救った場面も幾度かあり、緊迫した場面をまるで楽しんでいるかのような印象さえ受けました。将来がとても楽しみな選手達だし、しっかり指導して行きたいと思います。

Ｕ－19監督の玉村健治さんが、「今年の夏は、どこにもチャンスがあったと思う。最終的に、興南が制したのは、棚原・東長濱というスーパー１年生の加入が攻撃での３年生の負担を軽くし、その３年生がＤＦでも集中できたことが大きな勝因ではないでしょうか」と語っていました。改めてビデオなどを見ながら振り返って見ますと、まさにその通りだなと思います。

今大会は２回戦からの試合であったが、どの試合も気の抜けないし厳しいものであり、対戦したゲームは、どの試合もとても印象に残っています。

【選手への言葉・今後の課題と抱負】

１年生の加入により、戦力アップが図れましたことが大きな勝因だったと思います。だがしかし、最終的には、３年生の頑張りに尽きます。よくぞこの私についてきてくれたなと思います。厳しいトレーニングも、何ひとつ文句も言わず、しっかりとこなしてくれました。技術面の強化よりも、特に精神面での強化で、いろいろと試行錯誤したことが、私にもいい勉強になったし、いい体験もさせてもらいました。３年生達には感謝の気持ちでいっぱいです。

今後の課題は、春夏連覇という二冠達成をしたことに気を緩めず、あとひとつ、国体の優勝を目指し、一生に一度あるかないかの「三冠」を狙いたいと思います。

最後になりますが、ここまで来るのに多くの方々に、ご指導、ご鞭撻をいただきました。県協会副会長の新垣健先生には、大学進学及びハンドボールの指導法などでとてもお世話になり感謝しています。先生がおられたからこそ、先生に「追いつけ、追い越せ」の気持ちでこれまで頑張ってこれました。また、大分国際情報の富松先生や、長崎日大の谷山先生には、色々な角度から勉強させていただき、ありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。

女子優勝チーム監督の声

悲願の全国優勝を達成して

夙川学院高等学校ハンドボール部部長　**井上亮一**（写真左）
監督　**大崎俊一**（写真右）

この度、長崎県で行なわれました全国高等学校総合体育大会で優勝することが出来ました。創部41年目にして初優勝であります。

日本一になれたのも数多くの全国名監督の先生方や近畿、兵庫県においても素晴らしい指導者の方々と一緒に時を過ごさせて頂き、お世話になり、勉強させて頂いたおかげであると心から感謝しております。また、各中学校の先生方には手塩に育てた優秀な選手を私達に預けて頂き、感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

ここ２年、決勝戦で１点差で敗れ、計５回の準優勝が続き、日本一にはなれない運命かなあとも思いました。その運命を変えたのは選手達の頑張り、努力だと思います。今年のチームは力のない選手が多く、努力するしか日本一の道はないと常々言ってまいりましたが、私達も頭が下がるほど、本当によく努力しました．選手達には感謝の気持ちで一杯です。早朝から、練習後もグランドに選手の姿が消えることがないくらいでした。その粘り強さが準々決勝の洛北高校との試合に発揮されたものと思います。大会前からヤマと踏んでいたこの試合の勝利は選手達に大きな自信を与えてくれたものと思います。その勢いに乗り、120％の力を発揮し、準決勝、決勝は勝てたものだと思います。

今後も昔と同じように数十年経っても変わらない夙川学院を目指し、２人で頑張っていきたいと思います。叱咤激励をしながらお互いの役割分担をしっかりし、選手含めた関係を密にして、連帯感を高めながらチームづくりをするのが私達には合っているように思います。特に高校生の女子は選手と一緒に動けなくなれば指導も出来ないものと考えています。常に自分自身も鍛えながら２連覇を目指し、頑張りたいと思います。

今後とも、今までと変わることなく、御指導、御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

第30回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会

豊田高専が2年連続全国制覇

九州地区高等専門学校体育連盟ハンドボール競技専門委員　四宮一郎
（八代工業高等専門学校）

▶ 大会総括

第30回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会が、8月9日（土）、10日（日）に熊本県熊本市の県総合体育館（大・中アリーナ）で開催されました。今大会は、国立高専の法人化をむかえ節目の大会でもありました。台風の接近により一時は開催が危ぶまれましたが、幸いにも九州直撃を免れ、全チームの参加で大会を実施することができました。

ここ数年空調設備の整った施設で大会が開催されており、今回もできるだけ良い条件下で試合をしてもらいたかったのですが、今大会の会場は空調設備が大アリーナにしか完備されておらず、公平を期すということで予選リーグ・準決勝は空調を入れず、決勝戦のみ空調を入れて行いました。各チームの選手、役員の方々には暑い中、体調管理等ご苦労されたようで、今さらながら大変申し訳なく思っております。

今大会では初めての試みとして学生を大会計画の段階から参画させ、教職員スタッフと学生が大会運営にあたりました。約40名の学生スタッフの積極的な協力により、大会期間中トラブルもなく、競技もスムーズに進行することができました。また、県協会からも今大会に対するご理解をいただき、充実した審判団の派遣や、今後の大会運営に参考となるような多くのアドバイスをいただきました。

毎回、大会運営において課題となるのが、会場、宿舎、アクセス等に関わる問題です。大会の成否やチームの勝敗を左右する条件だけに、今大会はできるだけ各チームに負担をかけないようにと会場へのアクセスを考慮し、ＪＲ、バス、市電等を利用しやすい宿舎を手配しましたが、各チームにご苦労をおかけしたのではないかと思っています。

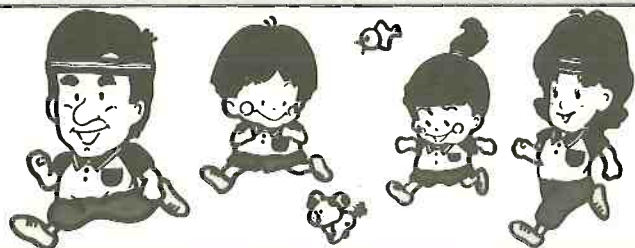
また、宿舎についても各チームの希望にそえることができたのだろうかと考えることばかりです。

今回の大会は、第30回にして初めての全地区参加の大会となりました。参加した各チームにおいても日頃の練習の成果を十二分に発揮し、ハンドボールを愛する仲間との交流を深め、思い出多き大会になったのではないかと思います。日本ハンドボール協会をはじめ、主管していただいた熊本県ハンドボール協会、八代高専の関係者のご協力によりこの大会を開催できたことを改めて御礼申し上げます。

▶ ゲームの総評

大会は初日に３校ごとの予選リーグを実施し、２日目は各予選リーグ１位校による決勝トーナメント方式で行われました。今大会も予選リーグから１点を争う白熱した好試合が展開されました。大阪府立高専は高知高専と引き分け、得失点差で決勝トーナメントに進出。９年ぶりの出場となった呉高専と３年連続出場の北九州高専との試合は、最後まで目の離せない試合となりました。北九州高専はすでに１勝しており、呉高専に勝利すれば初の決勝トーナメント出場が決定するという試合でしたが、呉高専が１点差で勝利し決勝トーナメントに進出しました。

大会２連覇のかかる豊田高専は予選リーグを危なげなく勝ち上がり、決勝トーナメントに進出し、準決勝でも大阪府立高専を破り２年連続の決勝進出となりました。

開催校の八代高専は熊本県全国大会優勝100勝という記録がかかっており、熊本県協会の期待を背負い試合に臨みました。選手たちはプレッシャーを感じていたのか、開会式直

後の明石高専との試合は接戦となりましたが辛うじて逃げ切り、富山高専との試合は実力を発揮し、決勝トーナメントに進出することができました。準決勝でも呉高専と接戦となり、前半同点で折り返し後半も１点を争う試合展開になりましたが、辛うじて逃げ切り決勝戦へ進出しました。

八代高専と豊田高専の決勝戦は、立ち上がり八代高専がリズムを掴みかけるものの、15分過ぎから豊田高専が盛り返し、前半は10対10の同点で折り返しました。後半立ち上がり八代高専がリードを広げ、このまま逃げ切るかと思われましたが、豊田高専が６連取し逆転に成功。八代高専の反撃も及ばず、豊田高専が２年連続５回目の優勝を果たしました。

今大会の優秀選手は、加藤邦彦、石黒洋平、北河邦和（以上、豊田高専）、山形　明、若松和哉（以上、八代高専）、岩坂優一（呉高専）、川上雅裕（大阪府立高専）の７名が選出されました。

（試合結果はスコアルーム（p.25）に掲載）

悩み、泣き、感動、そして連覇

豊田高専ハンドボール部監督　**藤本巳由紀**

豊田高専ハンドボール部は昨年に引き続き全国優勝を成し遂げました。豊田高専の連覇は初めてのことで、今回の結果を大変嬉しく思います。

今回の全国大会は、大会に臨む直前から色々なアクシデントに見舞われました。大会10日前にディフェンスの中核となる選手が膝を負傷し、移動前日になってもう一人の核となる選手が諸事情で急遽不参加。さらに追い討ちをかけるように、台風10号の九州上陸に伴い、熊本行きの飛行機が欠航すれば大会参加を断念せざるを得ない危機にも直面しました。ここまで色々な事が起こると、監督の私もさすがに動揺しましたが、このような状況下で当の学生たちが、飄々としている姿を見て、『動じずやるしかない』という思いになりました。

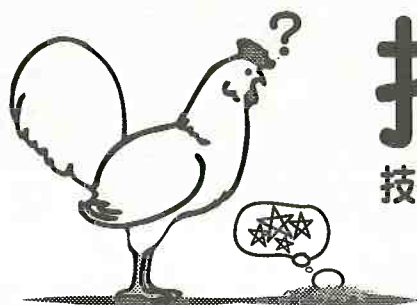
予選リーグでは、大会直前、スタートに抜擢された１、２年生の精神状態やプレイが心配されましたが、時間を追うごとに、試合を重ねるごとに成長し機能している光景はうれしい誤算でした。八代高専との決勝戦では、開始早々地元の声援を受けた八代に４点差をつけられ、慌ててタイムアウトを請求するなど、終始緊張したゲーム展開でした。それでも、前半終了までに追いつき、後半に入って豊田のディフェンスが機能し始めたことで、コート上の選手がのびのびと、最後の試合を楽しみながら戦ってタイムアップを迎えることができました。

今回に限らず全国大会において、学生たちがこのような舞台で思い切りプレイできる背景には、学生の頑張りはもちろんのこと、愛知県という恵まれた環境にいるということが考えられます。高体連や東海学生連盟、更には西三河、豊田市協会などが主催する公式戦に数多く参加させていただいています。ゆっくりとした歩みではありますが、高専生なりにハンドボールを学び、ハンドボールで悩み、泣き、感動した中で、彼らが体得したすべてを全国大会で表現しています。こうした環境にあること、そして、普段から私を含め豊田高専に対してご指導して下さった諸先輩方にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

現在、国立高等専門学校の民営化に伴い、今後高専体育大会の運営がどのように変化していくかわからない状況にあります。学内でのクラブ活動離れも否めない中、そうした逆境を跳ね返し今後も高専界のハンドボールが益々元気になるよう尽力したいと思います。

役割分担で強力指導体制を

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

アテネは遠かった—。終わった瞬間、神戸で感じた悔しさ、空しさ、そして虚脱感は「その時」をターゲットに努力、苦労されてきた人たちにとっては私の比ではないはずだ。

しかし、男女ともチームは確実に成長していることは間違いない。これまでの路線を貫いて世界へはばたく道を進まなくては、ここまで精進してきた意味がないことには異論はあるまい。

神戸での緊迫した試合を追いながら気づいたことがある。チームをさらに練り上げ、世界で勝負していくには「集団指導体制」の確立が必要ではないかと言うことである。

いろいろなハードルを乗り越えてデータ収集の分析班は軌道に乗ってきた。チームにとっては大いに参考になっていくはずである。そうしたテクニカルレポートは多くの指導者に貴重な資料として役立っていることだろう。

指導体制改革の第２弾としてスタッフに「ＧＫコーチ」の採用である。わが国の監督はほとんどがコートプレーヤーの出身である。おのずと指導に限界があるのではないかと思う。ある日本リーグの監督は「コートプレーヤー経験者はそうした目からでの指導しか出来ない。ＧＫ出身者ならではの指導もあるはずだ」と話している。

サッカーでは日本代表だけでなく、Ｊリーグ各チームで専任コーチ体制を敷いているし、トレセンで彼らがＧＫを集めて指導している。やはりＧＫは一種の専門分野であると認識しているのであろう。

今回のアジア予選で女子支援コーチを務めた栗山氏はＧＫ出身。韓国戦で連敗をストップした一因にはＧＫの好セーブが挙げられる。本大会出場は逃がしたが、栗山支援コーチの存在が大きかったことは間違いあるまい。男子Ｕ—19の玉村監督も「実践している」と必要性を認めている。

ユーゴのナショナルチーム歴代監督には、ＧＫ出身者が多いと聞く。ただ単に指導にたけているという理由だけではなかろう。それだけ重要なポジションと位置付けているのではないだろうか。

それはともかく、世界舞台でアピールするには役割分担による集団指導体制が必要だろう。監督を頂点にコーチ、ＧＫコーチ、分析班などの強力スタッフがタッグを組んでこそ成せるのではなかろうか。

NTS2003報告
ブロックトレーニングを終えて

NTSコーディネーター　栗山雅倫

つい先日、兵庫県神戸市で開催された、アテネオリンピック・アジア地区予選が終了いたしました。結果は、男女ともオリンピックの切符を手中にできませんでしたが、その奮闘振りは皆様ご存知の通りかと思います（女子は世界選手権の結果により、参加可能性が僅かながら残る）。男子は韓国との引き分けを含む２勝１分けの２位となり、選手・スタッフの成果が十二分に発揮された内容だと確信いたします。また、女子は最終戦のカザフスタン戦を落とし、４位に終わりましたが、韓国戦は引き分けに持ち込みました。男女双方、永年韓国に喫した連敗記録に、新たな歴史を刻んだことは紛れもありません。チームそのものの努力もさることながら、分析チームのパワーや、他に支えた力は数多くあると思います。いわば、最近の日本ハンドボール界のダイナミズム（活動力）が、徐々に見えてきているのではないでしょうか？

ＮＴＳのフィロソフィー（哲学：考え方）も、一貫強化を推進しながら、ダイナミズムを発していく…という点で、同様の役割が求められていると思います。2000年に発足して以来、現在もまだ紆余曲折している段階であることは否めません。しかしながら、日本の強化の根幹を担うシステムとして、動き始め、そろそろ参加した年代が、ナショナルチームに参加していく時期が来ました。皆様方お一人お一人の力が反映されるべく、今後も鋭意精進してまいりたい所存です。北京オリンピック出場をはじめとする、将来の夢に向けて、引き続きお力添え頂けますよう、お願い申し上げます。

さて、全国９ブロックで展開された「NTS2003・ブロックトレーニング」も、皆様方のご尽力で、無事終了することができました。今回は、ブロック裁量を強化し、各地区のオリジナリティーが、今まで以上に展開されるべく、ブロックトレーニングを催しました。来る10月25日のＮＴＳミーティング後に、詳細についてご報告申し上げますが、今回は一例を、簡単にご紹介させていただきます。

関東地区の新しい試み

今回、関東地区では、全日本男子ジュニアの滝川コーチ、高校で実際に活躍されている法政二高の阿部先生に、インストラクターとしてご協力頂き、藤本コーディネーター（シャトレーゼ、コーチ）が全体の掌握、その他のインストラクターが各担当を担うことで、運営の充実と円滑を図りました。これに関し、藤本コーディネーターからコメントをいただきました。

『今回の試みで、一番の収穫は、全体からの意見の吸い上げという点で、更なる可能性がみえたことだと思います。普段から該当の年代と接している先生方は、伝達の仕方に長けており、丁寧にご指導いただけたのではないかと思います。

そのような先生方がスタッフだからこそ、引率指導者の方が共感できた部分が多く、様々な意見が出てきたのだと思います。加えて、ＮＴＳテクニカルグループ等からの落とし込みの充実が図れたことも、良い方向に貢献していると思います。これも、共感部分の多いスタッフの仲介によるところが大きいと言えるでしょう。

また、今回の新しい試みの一環として、引率指導者の方々との、情報交換会を開催いたしました。このようなことも手伝い、以下のような様々な意見を得ることができました。

ＮＴＳの定着、ジュニア等へのつながりの明確化、そして指導者の参加意識が高まったこと、更には、指導内容の充実…など、沢山のポジティブな意見を頂きました。反面、小学生の内容や方向性の明確化を求める声や、高校指導者のみならず、小中学生指導におけるエキスパートのインストラクター参加の要請など、課題が見つかったのも事実です。今後もより生の声を頂戴しながら、更なる発展につなげていければと思います。』

好評!!　DVD

従来、スポーツの指導書は、静止画の説明によるものでした。今回、ビデオと教本を一体化し、電子教科書をイメージしたDVDを手作りいたしました。まだまだ試作段階ということと、すべてを手作りにすることで、低価格での提供を実現できたことも手伝い、現在までに既に在庫が無くなる状態になりました。来年度はさらに改良されたものをご提供いたしたいと思っております。また、今年度の分も、受注状況によって、増加生産いたします。さらには、NTS2000、2002の教本ビデオと合わせてご覧頂ければ、課題の変遷もご理解いただけるかと思います。下記宛に、どしどしご注文下さい。

■申し込み・問い合わせ先
財団法人日本ハンドボール協会　事務局
〒150−8050
東京都渋谷区神南１−１−１　岸記念体育会館内
TEL：03−3481−2361　FAX：03−3481−2367

第28回日本ハンドボールリーグ日程表（第3週～第8週）

週	月日	開催地 都道府県	会場	1部男子		1部女子		2部男子	
				時間	組合せ	時間	組合せ	時間	組合せ
3	11月8日(土)	山梨県	緑ヶ丘スポーツ公園体育館			13:00	北国銀行vsソニー		
						15:00	メイプルレッズvsシャトレーゼ		
		山口県	周南市総合スポーツセンター	13:00	ホンダvs大崎電気				
				15:00	湧永製薬vs大同特殊鋼				
		佐賀県	神埼中央公園体育館	13:00	トヨタ車体vsHC東京				
				15:00	ホンダ熊本vsアラコ九州				
	11月9日(日)	山梨県	緑ヶ丘スポーツ公園体育館			11:00	北国銀行vsHC名古屋		
						13:00	メイプルレッズvsオムロン		
						15:00	シャトレーゼvsソニー		
		山口県	周南市総合スポーツセンター	11:00	ホンダvs大同特殊鋼				
				13:00	湧永製薬vs大崎電気				
		佐賀県	神埼中央公園体育館	13:00	ホンダ熊本vsHC東京				
				15:00	トヨタ車体vsアラコ九州				
4	11月15日(土)	東京都	駒沢体育館	15:00	ホンダ熊本vsトヨタ車体				
				17:00	アラコ九州vsHC東京				
		兵庫県	大阪ガス今津総合グランド					14:30	豊田合成vs北陸電力
								16:00	大阪ガスvsトヨタ自動車
	11月16日(日)	東京都	駒沢体育館	14:00	大同特殊鋼vs大崎電気				
				16:00	ホンダvs湧永製薬				
5	11月22日(土)	埼玉県	八潮市立鶴ヶ曽根体育館	14:00	大崎電気vsトヨタ車体				
		福井県	北陸電力福井体育館フレア					14:00	北陸電力vsトヨタ自動車
		愛知県	枇杷島スポーツセンター	13:00	大同特殊鋼vsホンダ熊本				
		愛知県	豊田合成㈱健康管理センター					14:00	豊田合成vs大阪ガス
		三重県	鈴鹿市体育館	14:00	ホンダvsHC東京				
		京都府	京都市体育館			15:00	オムロンvsHC名古屋		
		広島県	東区スポーツセンター			14:00	メイプルレッズvsソニー		
		高知県	高知県民体育館	13:00	湧永製薬vsアラコ九州				
	11月23日(日)	石川県	小松総合体育館			13:00	北国銀行vsシャトレーゼ		
6	11月27日(木)	東京都	駒沢屋内球技場	18:30	HC東京vs大崎電気				
	11月29日(土)	宮城県	大和町総合体育館	13:30	トヨタ車体vsホンダ				
		愛知県	ブラザー工業体育館			14:00	HC名古屋vsメイプルレッズ		
		佐賀県	神埼中央公園体育館	15:00	アラコ九州vs大同特殊鋼				
		鹿児島県	ソニーセミコンダクタ九州㈱体育館			14:00	ソニーvs北国銀行		
	11月30日(日)	山梨県	小瀬スポーツ公園体育館			15:00	シャトレーゼvsオムロン		
		熊本県	天草工業高校体育館	13:30	ホンダ熊本vs湧永製薬				
7	12月3日(水)	埼玉県	富士見市立市民総合体育館	18:30	大崎電気vsアラコ九州				
	12月6日(土)	三重県	四日市市中央緑地体育館	14:00	ホンダvsホンダ熊本				
		福岡県	福岡県スポーツ科学情報センター	15:30	湧永製薬vs大同特殊鋼	14:00	オムロンvsメイプルレッズ		
		鹿児島県	国分市総合体育館			14:00	ソニーvsHC名古屋		
	12月7日(日)	愛知県	豊田市体育館	15:20	トヨタ車体vsHC東京			12:00	北陸電力vs大阪ガス
								13:40	トヨタ自動車vs豊田合成
8	12月13日(土)	東京都	大田区体育館	15:00	HC東京vsホンダ熊本				
		愛知県	三好公園総合体育館			13:40	シャトレーゼvsメイプルレッズ	12:00	トヨタ自動車vs北陸電力
						15:20	北国銀行vsHC名古屋		
		佐賀県	佐賀県総合体育館	15:00	アラコ九州vsトヨタ車体				
		鹿児島県	ソニーセミコンダクタ九州㈱体育館			13:00	ソニーvsオムロン		
	12月14日(日)	愛知県	中村スポーツセンター	16:00	大同特殊鋼vsホンダ	12:00	北国銀行vsメイプルレッズ		
						14:00	HC名古屋vsシャトレーゼ		
		兵庫県	大阪ガス今津総合グランド					15:00	大阪ガスvs豊田合成
		鳥取県	境港市民体育館	14:00	大崎電気vs湧永製薬				

チーム情報・会場へのアクセス方法は、ホームページで詳しく掲載しております。

☆日本リーグホームページ　http：//www. jhl. handball. jp/

ｉ－ｍｏｄｅ版　http：//www. jhl. handball. jp/i/

五大都市体育大会半世紀の歴史に幕

京都市ハンドボール協会会長　**小西博喜**（近畿福祉大学教授）

京都、大阪、神戸、名古屋、横浜の政令指定都市五市で行ってきた五大都市体育大会が７月12、13日京都市で開催された第54回大会を最後に半世紀の歴史に幕を閉じた。その理由は、厳しい財政状況から大会の継続は難しく、五市間の協議で廃止が決定された。

五大都市体育大会は、戦後間もない昭和25年（1950年）、市民スポーツの振興と五市の交流を目的に始まった。毎年、各都市が持ち回りで開催する総合体育大会で、順次、競技種目が増え、今年は20種目を実施した。また、各市からそれぞれ約400人の選手団が参加した。昨年12月、１部の市から財政難を理由に廃止の提案があり、各市の体育協会が継続を要求したが、全市がそろって「継続」方針で一致できなかったため、６月下旬に廃止の結論に至った。「廃止」の形で終わることは残念であり、今後は別の形でスポーツを通じた交流会が検討されるはずである。市民スポーツ振興交流の復活を目指し、「継続」を主張する都市に他都市の新加入を含めての再出発を願っている。

大会結果、総評と順位

▼男子

（一回戦）

◆横　浜　27－24　神　戸

ベテランの試合巧者神戸は若さの横浜と一進一退で互いに譲らない。横浜商工時代の武器、スイッチプレーを随所に使い、神戸を撹乱した横浜が勝利した。

（準決勝）

◆大　阪　13－28　名古屋

個人プレーを生かして対抗する大阪は、パスミスを重ねて得点を落としたのが痛かった。一瞬の基本ミスに泣いた内容といえる。前年度優勝の名古屋はソツのない早い攻防が一際光った。

◆横　浜　13－23　京　都

地元京都は若手メンバーに切り替え、横浜のマジック的な早い攻撃にディフェンスがよく守った。攻めても、サイドの速攻が功を奏して横浜に立ち直る隙を与えなかった。

（決　勝）

◆京　都　15－10　名古屋

前半、立ち上がりから名古屋に固さが目立ち、それがプレーに影響した。逆に京都は、その機に乗じて一方的な試合運びで圧勝した。しかし、後半は名古屋ペース。連続ゴールの追い上げに京都は攻め手を欠いたが、前半の貯金でかろうじて振り切った。地元開催で最終戦を飾れたことは意義深かった。

１位 京都、２位 名古屋、３位 横浜、４位 大阪、５位 神戸

▼女子

（一回戦）

◆名古屋　20－13　横　浜

横浜は若さあふれるフットワークでよく走る。名古屋は手を焼いたが、横浜のミスを待って確実に得点を重ね主導権を握り、危なげなく勝利した。

◆神　戸　21－12　大　阪

大阪は、元大和銀行ナショナルメンバー３人を主体に老獪さでしのぐ。立ち上がり、神戸は５－０と機先を制したのは見事。大阪は３本の７ｍスローをはずし、敗因の傷口を開いてしまった。一方、神戸は武庫川女子大ＯＧの足を生かした速攻で勝利をつかんだ。

（一回戦敗者戦復活戦）

◆大　阪　17－16　横　浜

大阪が老練なテクニックで一点差で逃げ切った。横浜は勝てるチャンスを再三つかみながらシュートが決まらず、後味の良くないゲームになってしまった。横浜の善戦が惜しまれる。

（準決勝）

◆大　阪　11－18　京　都

大阪の元ナショナルメンバーをフリーにせず、チャンスを要所々々でつぶし、流れを京都に引き込んだのが良かった。

◆名古屋　17－13　神　戸

名古屋は終始気迫で押しまくった。神戸もよく走ったが、シュートに結びつかず惜しいチャンスをつぶした。名古屋は基本的にミスが少なく、的確なシュートで走り勝ちした。

（決　勝）

◆名古屋　21－13　京　都

前半は相互に相手の出足を伺い、チャンスをねらった。名古屋は安定した試合運びで着実に点を重ねた。後半は気力の面でも名古屋のワンサイドゲームとなり、京都は追いつくのが精一杯。名古屋の実力は順当の勝利といえる。

１位 名古屋、２位 京都、３位 大阪、４位 神戸、５位 横浜

■ 平成15年度第6回ハンドボール研究集会 ■

ボール運動教材としてのハンドボール －その6－ を終えて

佐藤　靖（秋田大学教育文化学部）
村山明夫（神奈川県立六ツ川高等学校）

佐藤　靖氏

村山明夫氏

平成15年度、第6回ハンドボール研究集会が、7月30日、31日の2日間にわたって秋田大学教育文化学部附属小学校において開催されました。120名近くの参加者が集い、学校体育におけるハンドボールの教材価値の検証とその授業のあり方についての討論が、講義・講演や研究発表等を通じて行われました。以下にその概要を記します。

▶7月30日（水）

[講　演]

「これからの学校体育の在り方―体力の向上と評価を中心に―」
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官
（併）文部科学省スポーツ・青少年局企画・体育課教科調査官　渡邉　彰

学習指導要領が改訂され、児童・生徒が、「生きる力」を身につけることが必要といわれています。周知の通り、現代生活の中で児童・生徒が体を動かす機会は減り、体力・運動能力の低下が言われています。指導者が体育の授業において運動の内容と取り上げかたを工夫することで、児童・生徒の体力の向上や身体運動への気付きを促し、課題解決能力や社会性を育成することができます。また、その指導計画をしっかり立て、達成目標を明確にし、評価の観点を整理することが求められています。

[研究・実践報告]

1「小学校におけるハンドボールの授業の記録」（ビデオ発表）高松葉司（奈良県三宅小学校）
2「小学校におけるハンドボールの教材価値と授業づくりの一方策」内田雄三（東京学芸大学附属世田谷小学校）
3「活発なボールゲームの条件―ハンドボールと他ボールゲームの比較を通して」山本　繁（岩手県田野畑村立島越小学校）
4「ボール運動への導入教材の開発～空間認識能力の育成」信原悦治（岡山市立大野小学校）

全国各地の小学校で、体育の授業の中で取り上げられているハンドボールの内容がビデオ等で紹介されました。どの授業も児童の実態やねらいに応じた、先生の創意と工夫が感じられ、「ボール運動の教材」としてハンドボール型ゲームが高い価値を持つ可能性を示していたと思います。

[実技研修]

「ハンドボールの教材としての系統性を考える」藤井喜一（東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校副校長）

研究集会参加者が実際に児童の立場になって体を動かしました。児童用の一号級ハンドボールや簡易ゴール、カラーコーン等の教材を用いて、ハンドボール型のボールゲームを実践し、その楽しさや授業実践のポイントを考えました。

▶7月31日（木）

[授業提案]

「ハンドボールを楽しもう!!　パスをつないでゴールへ」（4年）授業者：木谷光男（秋田大学附属小学校）
「Ｇｕｔｓだ　チャンスだ　ボールをつなごう！　～ウイングハンドボール～」（5年）授業者：京極　努（日新小学校）

研究集会参加者の前で実際に小学校5，6年生の体育の授業が行われた。いかにチームで協力して攻撃（守備）をするかという戦術学習をルールや用具が工夫されたゲームを通じて学習していく内容でした。どちらの授業内容もたとえハンドボールのプレー経験の無い先生でも、ハンドボールを教材にして効果的な体育の授業ができることをあらわしていました。元気に走る子供達の様子が印象的でした。

[講　義]

「体育のカリキュラム論からみたハンドボール」武隈　晃（鹿児島大学教育学部助教授）

学校体育のカリキュラムの中で、ボール運動の分類論の重要性に触れ、そこにおけるハンドボールの特性について話がされました。また、ボール運動の学習を深めるには10才くらいの時期が重要なことや、運動が制限される児童の授業への関わり方（戦術・仲間との関わり）、良い授業を学校内で伝搬させていくためにはコートやゴール等の形のあるものを残し、示していく必要があることが述べられました。

スコアールーム①

第23回全国クラブハンドボール選手権大会・西地区大会

開催期日：平成15年7月11日(金)、12日(土)、13日(日)
会　　場：大牟田市市民体育館、福岡県立三池高等学校体育館

【男　子】

■予選リーグ・aブロック

PF須磨東クラブ 27（12−10、5−8）18 総社クラブ
PF須磨東クラブ 23（14−7、9−13）20 香椎ファミリー
香椎ファミリー 24（16−13、8−8）21 総社クラブ

■予選リーグ・bブロック

アローズ高知 23（11−8、12−11）19 KHC
アローズ高知 36（19−10、17−11）21 三重教員
KHC 32（15−11、17−11）22 三重教員

■予選リーグ・cブロック

大瀬クラブ 22（8−10、14−12）22 下松クラブⅡ
久留米クラブ 20（9−5、11−14）19 大瀬クラブ
下松クラブⅡ 22（12−7、10−9）16 久留米クラブ

■予選リーグ・dブロック

SOCIO OSAKA 21（8−10、13−7）17 京すし神崎クラブ
SOCIO OSAKA 26（10−5、16−10）15 白石クラブ
京すし神崎クラブ 27（14−6、13−13）19 白石クラブ

■準決勝

PF須磨東クラブ 23（12−11、11−8）19 アローズ高知
下松クラブⅡ 24（11−11、13−10）21 SOCIO OSAKA

■3位決定戦

SOCIO OSAKA 22（11−9、11−11）20 アローズ高知

■決　勝

下松クラブⅡ 22（10−8、12−11）19 PF須磨東クラブ

■5位7位決定戦

香椎ファミリー 26（13−10、13−8）18 KHC
久留米クラブ 25（12−9、13−11）20 京すし神崎クラブ

■9位11位決定戦

総社クラブ 36（17−13、19−5）18 三重教員
白石クラブ 21（11−5、10−11）16 大瀬クラブ

【女　子】

■1回戦

愛知WINS 18（10−6、8−9）15 古都クラブ
クラブ下松 24（12−8、12−4）12 具志川クラブ
FCC 18（6−7、12−7）14 香川レディース
コスモビッキーズ 26（15−10、11−9）19 金曜クラブ

■準決勝

クラブ下松 25（14−4、11−3）7 愛知WINS
コスモビッキーズ 25（10−6、18−6）12 FCC

■決　勝

コスモビッキーズ 19（11−7、8−9）16 クラブ下松

■3位決定戦

FCC 22（14−5、8−7）12 愛知WINS

■5位6位決定戦

・1回戦

具志川クラブ 23（10−5、13−7）12 古都クラブ
金曜ハンドボールクラブ 22（11−13、11−8）21 香川レディース

・決定戦

金曜ハンドボールクラブ （棄　権） 具志川クラブ

■7位8位決定戦

香川レディース 18（6−9、12−8）17 古都クラブ

スコアールーム②

第23回全国クラブハンドボール選手権大会・東地区大会

開催期日：平成15年7月25日(金)、26日(土)、27日(日)
会　　場：本宮町総合体育館、本宮体育館、本宮高校体育館

【男　子】

★会長杯トーナメント★

<1回戦>

紫嵐会 27（12−8、15−13）21 蓮田クラブ
金津クラブ 17（10−8、7−8）16 HCミリオン
不来方クラブ 29（14−16、15−9）25 小金クラブ
蒔田クラブ 21（10−7、11−11）18 柏崎クラブ
青商クラブ 25（11−8、14−13）21 伊奈イーグルス
沼南クラブ 23（8−10、15−6）16 福島MTS
志高クラブ 31（15−10、16−15）25 湖陵クラブ
RAZE 31（15−6、16−9）15 シンコール・ドルフィンズ

<2回戦>

紫嵐会 29（11−8、18−11）19 金津クラブ
不来方クラブ 18（9−8、9−7）15 蒔田クラブ
沼南クラブ 24（11−11、13−8）19 青商クラブ
RAZE 23（8−7、9−10）22 志高クラブ
（4−4延長2−1）

<準決勝>

紫嵐会 24（11−11、13−12）23 不来方クラブ
沼南クラブ 15（8−10、7−4）14 RAZE

<決　勝>

紫嵐会 22（12−11、10−10）21 沼南クラブ

★町長杯トーナメント★

<1回戦>

HCミリオン 20（12−6、8−8）14 蒔田クラブ
小金クラブ 32（16−10、16−11）21 柏崎クラブ
伊奈イーグルス 28（14−11、14−12）23 福島MTS
湖陵クラブ 36（18−12、18−10）22 シンコール・ドルフィンズ

<準決勝>

小金クラブ 22（11−10、11−6）16 HCミリオン
湖陵クラブ 29（13−9、16−9）18 伊奈イーグルス

<決　勝>

小金クラブ 29（14−11、15−5）16 湖陵クラブ

【女　子】

★会長杯トーナメント★

<1回戦>

SAKURAクラブ 20（12−5、8−3）8 岩手桐花クラブ
福島クラブ 16（5−1、11−4）5 豊平クラブ
氷見クラブ 17（5−10、8−3）16 筑波学園クラブ
（2−2延長2−1）
萩江クラブ 24（12−6、12−8）14 ガビアーノ・チップス

<準決勝>

SAKURAクラブ 16（9−5、7−8）13 福島クラブ
氷見クラブ 12（5−3、7−7）10 萩江クラブ

<決　勝>

氷見クラブ 20（6−10、10−6）16 SAKURAクラブ
（1−3延長3−0）

★町長杯トーナメント★

<1回戦>

岩手桐花クラブ 16（8−5、8−8）13 豊平クラブ
筑波学園クラブ 17（7−4、10−10）14 ガビアーノ・チップス

<決　勝>

筑波学園クラブ 20（9−7、11−4）11 岩手桐花クラブ

スコアールーム ③

第5回全日本ビーチハンドボール選手権大会

開催期日：平成15年8月2日(土)、3日(日)
会　　場：富浦町原岡海水浴場（千葉県安房郡富浦町）

【男　子】

優　勝　Beach Boys　2003（東京都）
準優勝　微少年100%（東京都）
第3位　KAGRA（東京都）
4位　多摩ドリームズ（神奈川県）
5位　サンバ☆de☆富浦（千葉県）
6位　双頭会（埼玉県）
7位　IBU勝浦パイレーツ（千葉県）
8位　SAKURA（東京都）
9位　東海学連クラブ（愛知県）

＜予選リーグ＞

（Aリーグ）
①Beach Boys　2003（東京都）
②多摩ドリームズ（神奈川県）
③IBU勝浦パイレーツ（千葉県）
Beach Boys　2（12－6、11－9）0　多摩ドリームズ
多摩ドリームズ　2（13－9、12－11）0　IBU勝浦
Beach Boys　2（14－7、13－8）0　IBU勝浦

（Bリーグ）
①微少年100%（東京都）
②東海学連クラブ（愛知県）
③双　頭　会（埼玉県）
微少年100%　2（14－6、18－13）0　東海学連クラブ
双　頭　会　2（6－13、17－8、3－2）0　東海学連クラブ
微少年100%　2（17－11、15－7）0　双　頭　会

（Cリーグ）
①サンバ☆de☆富浦（千葉県）
②KAGRA（東京都）
③SAKURA（東京都）
KAGRA　2（15－10、11－7）0　サンバ☆de☆富浦
KAGRA　2（15－1、14－8）0　SAKURA
サンバ☆de☆富浦　2（12－8、7－4）0　SAKURA

＜決勝リーグ＞

◆1～3位リーグ
①Beach Boys　2003（東京都）
②微少年100%（東京都）
③KAGRA（東京都）
Beach Boys　2（15－10、11－7）0　微少年100%
微少年100%　2（8－14、18－15、7－6）1　KAGRA
Beach Boys　2（17－5、13－8）0　KAGRA

◆4～6位リーグ
④多摩ドリームズ（神奈川県）
⑤双　頭　会（埼玉県）
⑥サンバ☆de☆富浦（千葉県）
多摩ドリームズ　2（14－13、20－13）0　双　頭　会
サンバ☆de☆富浦　2（13－14、12－11、3－2）1　双　頭　会
多摩ドリームズ　2（16－15、17－8）0　サンバ☆de☆富浦

◆7～9位リーグ
⑦IBU勝浦パイレーツ（千葉県）
⑧東海学連クラブ（愛知県）
⑨SAKURA（東京都）
IBU勝浦　2（9－7、10－9）0　東海学連クラブ
SAKURA　2（15－16、12－10、5－2）1　東海学連クラブ
IBU勝浦　2（8－7、11－13、3－1）0　SAKURA

【女　子】

優　勝　藤　乃　～女将と愉快な仲居たち～（東京都）
準優勝　あぶらおおめ（東京都）
第3位　LEGO・ガールズ　～真夏の海の旅編～（千葉県）
4位　IBU勝浦パイレーツGAL’S（千葉県）
5位　千葉クラブ（千葉県）
6位　藤村女子高等学校（東京都）

あぶらおおめ　2（12－4、15－5）0　藤村女子高校
藤　乃　2（12－5、13－8）0　LEGO・ガールズ
千葉クラブ　2（8－6、6－8、3－1）1　IBU勝浦
藤　乃　2（12－13、11－7、3－0）1　藤村女子高校
千葉クラブ　2（10－9、8－11、4－2）1　LEGO・ガールズ
IBU勝浦　2（9－12、11－8、3－2）1　あぶらおおめ
藤村女子高校　2（12－8、10－12、3－2）1　千葉クラブ
あぶらおおめ　2（10－8、7－8、5－4）1　LEGO・ガールズ
藤　乃　2（10－5、13－7）0　IBU勝浦
あぶらおおめ　2（9－3、10－11、3－2）1　千葉クラブ
IBU勝浦　2（5－8、10－9、3－1）1　藤村女子高校
藤　乃　2（12－5、11－6）0　千葉クラブ
LEGO・ガールズ　2（5－2、8－10、4－3）1　IBU勝浦
藤　乃　2（10－5、11－8）0　あぶらおおめ
LEGO・ガールズ　2（7－5、10－2）0　藤村女子高校

スコアールーム④ 高松宮記念杯第44回全日本実業団ハンドボール選手権大会

開催期日：平成15年7月31日(木)、8月1日(金)、2日(土)、3日(日)
会　　場：柏崎市総合体育館、かきざきドーム

【男　子】

■1回戦

トヨタ車体 27（13－8、14－9）17 北陸電力
ホンダ熊本 25（13－12、12－12）24 アラコ九州
北陸電力 31（14－11、17－6）17 大阪ガス
ホンダ熊本 36（17－5、19－3）8 豊田合成
アラコ九州 31（14－12、17－11）23 八光自動車

■2回戦

大同特殊鋼 25（12－8、13－10）18 北陸電力
大崎電気 20（11－10、9－9）19 トヨタ車体
湧永製薬 31（17－7、14－9）16 ホンダ熊本
ホンダ 28（16－8、12－10）18 アラコ九州

■9～11位決定リーグ

大阪ガス 27（11－5、16－9）14 豊田合成
八光自動車 28（13－8、15－11）19 豊田合成
八光自動車 24（10－8、14－13）21 大阪ガス
※八光自動車の9位、大阪ガスの10位が決定
※2敗の豊田合成は、11位が決定

■7、8位決定戦

アラコ九州 31（16－13、15－16）29 北陸電力

■5、6位決定戦

ホンダ熊本 21（12－8、9－8）16 トヨタ車体

■決勝リーグ

湧永製薬 28（17－10、11－13）23 大崎電気
大同特殊鋼 23（13－7、10－9）16 ホンダ
大同特殊鋼 28（13－11、15－14）25 湧永製薬
ホンダ 23（12－6、11－13）19 大崎電気
大同特殊鋼 22（11－6、11－11）17 大崎電気
ホンダ 27（15－14、12－11）25 湧永製薬

■最終順位

優勝　大同特殊鋼　3勝
第2位　ホンダ　2勝1敗
第3位　湧永製薬　1勝2敗
第4位　大崎電気　3敗

【女　子】

■予選トーナメント

北國銀行 27（17－14、10－12）26 ソニー九州
オムロン 27（11－5、16－9）14 MIE Violet' IRIS

■5、6位決定戦

ソニー九州 23（10－8、13－7）15 MIE Violet' IRIS
※ソニーセミコンダクタ九州の5位、MIE Violet' IRISの6位が決定

■決勝リーグ

北國銀行 22（14－8、8－14）22 オムロン
広島メイプルレッズ 32（17－13、15－14）27 シャトレーゼ
オムロン 24（12－11、12－10）21 広島メイプルレッズ
シャトレーゼ 25（13－9、12－12）21 北國銀行
広島メイプルレッズ 25（15－12、10－10）22 北國銀行
シャトレーゼ 31（17－11、14－13）24 オムロン

■最終順位

優勝　広島メイプルレッズ　2勝1敗
第2位　シャトレーゼ　2勝1敗
第3位　オムロン　1勝1敗1分
第4位　北國銀行　2敗1分
（優勝と2位は、当該チームの対戦成績による）

スコアールーム⑤ 第30回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会

大会期日：平成15年8月9日（土）、10日（日）
会　　場：熊本市・県立総合体育館（大・中アリーナ）

■予選リーグ

(1)ブロック
高知高専 27－8 釧路高専
高知高専 21－21 大阪府立高専
大阪府立高専 36－9 釧路高専
※大阪府立高専が決勝トーナメント進出

(2)ブロック
豊田高専 27－17 津山高専
豊田高専 24－13 秋田高専
津山高専 26－25 秋田高専
※豊田高専が決勝トーナメント進出

(3)ブロック
八代高専 26－24 明石高専
八代高専 28－18 富山高専
明石高専 33－23 富山高専
※八代高専が決勝トーナメント進出

(4)ブロック
北九州高専 22－17 長岡高専
呉高専 16－15 北九州高専
呉高専 30－19 長岡高専
※呉高専が決勝トーナメント進出

■準決勝

豊田高専 19－9 大阪府立高専
八代高専 19－17 呉高専

■決　勝

豊田高専 23－17 八代高専

■最終順位

優勝　豊田高専（2年連続5回目の優勝）
準優勝　八代高専
第3位　呉高専
〃　大阪府立高専

第8回ジャパンオープンハンドボールトーナメント兼 第59回国民体育大会ハンドボール競技リハーサル大会

開催期日：男子の部　平成15年8月11日(月)、12日(火)、13日(水)、14日(木)
　　　　　女子の部　平成15年8月12日(火)、13日(水)、14日(木)
会　　場：八潮市立鶴ヶ曽根体育館（エイトアリーナ）、八潮市立大原中学校体育館
　　　　　吉川市総合体育館、埼玉県立吉川高等学校体育館、三郷市総合体育館

【男　子】

■1回戦

香川クラブ	33（14－9、19－9）18	野辺地クラブ
甲府クラブ	25（11－11、14－10）21	G．Family
埼玉フェニックス	27（14－7、13－5）12	正強クラブ
今治クラブ	24（12－13、12－8）21	海上自衛隊呉
ボンチフェローズ	34（13－12、21－12）24	リリオ神奈川
南海建設クラブ	30（12－11、18－11）22	岩手教員クラブ
ホンダクラブ	21（11－5、10－13）18	水海道鬼怒清流
氷見クラブ	38（21－16、17－14）30	スワロークラブ
HC岡山	40（18－10、22－8）18	NFC
エルムクラブ	28（14－11、14－16）27	熊本教員クラブ
埼玉教員クラブ	48（23－8、25－6）14	チームYASU
静岡クラブ	28（14－11、14－10）21	HC秋田
福島クラブ	36（15－13、11－13）31 （6－2延長4－3）	市川FOG
京都教員クラブ	35（15－10、20－12）22	金沢市役所
徳山クラブ	29（13－11、16－12）23	ラージェスト
MAX	29（14－6、15－8）14	大同クラブ

■2回戦

香川クラブ	36（20－5、16－12）17	甲府クラブ
埼玉フェニックス	34（19－8、15－16）24	今治クラブ
南海建設クラブ	28（11－11、17－10）21	ボンチフェローズ
氷見クラブ	33（17－7、16－11）18	ホンダクラブ
京都教員クラブ	33（19－8、14－17）25	福島クラブ
MAX	26（12－9、14－8）17	徳山クラブ
HC岡山	36（13－12、23－8）20	エルムクラブ
静岡クラブ	28（13－9、15－8）17	埼玉教員クラブ

■3回戦

香川クラブ	37（23－9、14－12）21	埼玉フェニックス
氷見クラブ	24（11－8、13－11）19	南海建設クラブ
HC岡山	28（14－5、14－9）14	静岡クラブ
MAX	25（14－11、11－11）22	京都教員クラブ

■準決勝

香川クラブ	29（15－12、14－12）24	氷見クラブ
HC岡山	27（10－11、17－14）25	MAX

■3位決定戦

MAX	26（16－13、8－11）25 （2－0延長0－1）	氷見クラブ

■決　勝

香川クラブ	31（15－12、16－14）26	HC岡山

（香川クラブは、3年連続6回目の優勝）

【女　子】

■1回戦

MIE. violet' IRIS	30（12－10、18－8）18	熊本クラブ
挙美組合	21（9－9、12－9）18	あじこめ
かながわガビアーノ	23（12－12、11－10）22	宮崎クラブ
S．H．Fシズオカ	27（12－5、15－7）12	大農OG
埼玉・白小鳩	41（22－0、19－7）7	函館ホッパーズ
香川銀行T．H．	28（15－15、13－5）20	白梅三英美会
HC岡山	25（14－11、11－13）24	HC東京VENUS
京都クラブ	25（12－12、13－12）24	小松クラブ女子

■2回戦

MIE. violet' IRIS	20（7－6、13－4）10	挙美組合
香川銀行T．H．	25（12－8、13－4）12	埼玉・白小鳩
S．H．Fシズオカ	18（12－8、6－9）17	かながわガビアーノ
HC岡山	30（14－10、16－9）19	京都クラブ

■準決勝

MIE. violet' IRIS	22（8－7、14－10）17	香川銀行T．H．
HC岡山	30（18－6、12－10）16	S．H．Fシズオカ

■3位決定戦

香川銀行T．H．	33（18－4、15－5）9	S．H．Fシズオカ

■決　勝

MIE. violet' IRIS	20（10－6、10－8）14	HC岡山

（MIE. violet' IRISは、2年連続2回目の優勝）

平成15年9月常務理事会

日　時　平成15年9月6日（土）
場　所　明治神宮会館
出席者　渡邉会長、山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事8名、参事2名、事務局3名

審議事項

1.規程集の件
・委員会等を整理し、規定集を策定し、印刷して冊子化する。
・規定集の表記方法は寄付行為の形式に準ずる。
・委員会の順序については検討する。
・東アジア連盟についても盛り込む。
・役員定数についても検討を行う。

2.全国理事長会の件
・メインの課題として、協会の方針を説明する。
・沖縄、熊本の理事長から県の小学生育成を中心とした普及・強化策の状況について説明をお願いする。

3.国体役員懇談会出席者について
・大西専務理事に一任する。

4.大会補助金の件
・今年度、大会補助金の増額の案が資料3によって示され、ジュニア育成の観点から了承された。
・今後国体リハーサル大会であるジャパンカップに対する援助は縮小化される恐れがあるので、協会独自の予算立てを考慮する。

〈アテネオリンピック予選関係〉

5.協賛金等予算関係
・兵庫県に対する補助金申請を、第1次予算の通りに申請する。
・入場収益に関して、神戸協会に対する還元金についてはさらに協議する。

6.競技関係
・大会期間中のスケジュールが示された。
・開会式では、ムスタファ会長の始球式等を検討する。

7.応援等支援体制について
・今後、さらに検討する。
・TVKのテレビ放送、ラジオ短波放送による広報について審議され、TVKについては放送権料を減額して実施し、ラジオ短波放送は、実施案が承認された。

8.強化関係
・ナショナルメンバーは現在の強化選手総てを候補とする。
・9月15日の記者会見で正式メンバー16名を公表する。

9.国際関係
・VIPの対応について説明がなされた。
・ネパール協会へ、日本リーグ所属チームからボールを提供する方向で検討する。

10.付帯行事について
・審判講習会を、指導者を含めて、講師にスタインバッハIHF審判長、スウェーデンレフェリーを講師に神戸で開催する。
・普及委員会、学校体育研究会を神戸で開催する。
・Tシャツ、ムササビグッズを神戸会場で販売する。
・テレビ放送について説明がなされた。

11.国際委員会より
・平成15年度第1回国際委員会の議事録の説明がなされた。

12.その他
・常務理事、参事等の役員の神戸での服装は、紺のブレザー、グレーのスラックス、バッチは金、エンブレム、Yシャツは自由とする。
・委員会を開催した際は議事録を提出する。
・マーケティング関連として、ムササビシャツの状況について説明がなされた。

報告事項

1.チームマネジメントシンポジウム
・9月7日（日）、渋谷東武ホテルで開催する。

2.国体ドーピング等について
・今年度の静岡国体に於いてドーピング検査を行う。
・パワーパンツの扱いは、見える場合はパンツと同色、見えない場合の色は問わない。
・今年度の登録状況が説明され、埼玉国体（平成16年度）のブロック割り当てが示された。

3.指導普及関係
・小学生大会のルールについて基準を検討する。
・小学生向け指導書と、ビデオ教材をセットにして販売する。

4.塩川・福井両氏対談について
・8月27日に行われた両氏の会談内容を機関誌10月号に掲載する。
・ハンドボールOBの発掘につとめ、名簿を作成する。
・塩川大臣、福井総裁に対しては今後機関誌を贈呈し、プレーオフ等への招待等を行い関係を継続するように努める。

5.全日本遠征結果
・ジュニア世界大会の結果を慎重に検討し、ジュニア層に対する強化をさらに厚くする。

6.JOC／大阪市パートナーシップに基づく合宿について
・表記事業について説明がなされた。

7.審判部より
・「パッシブプレーに関する通達」について説明がなされた。
・上記通達は10月1日から実施する。

8.10万人会サポート会の件
・9月5日現在のサポート会員都道府県別総数表が示され、会員数が増加していることが説明された。

9.その他
・全日本総合に高校生チーム（男子：興南高校）を推薦する方向で検討する。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」9月入会・継続会員

【北海道】高橋英明【岩手】野田高広【茨城】宮川　晋、宮川百合子、戸崎早苗【栃木】志賀良弘、長谷川大地【埼玉】細津　誠【千葉】舎利弗　学【東京】東野　翠、古矢博已、後藤恵理子、福山裕幸、平賀とみ子、松井郁雄【神奈川】夏山真也【富山】西坂真理子、越前明子【愛知】田中基明、西　みどり、佐藤壮一郎【三重】林　慎二郎、木戸地浩三、橋本行弘、矢野充彦【京都】田中依子【大阪】田中美音子、塩田芳弘、西江将之、塩田春美【兵庫】田中　慎【奈良】木村加代、木村和正、木村雅俊【広島】森岡　勝【香川】伊藤健一朗【高知】澤田哲雄【福岡】池辺晴二【熊本】田北久美子【沖縄】大城太郎、大城　聡、大城大二郎

切手に見るハンドボール（2）

前回に引き続きハンドボールの切手を紹介しましょう。シドニーオリンピック以降メダリストの顔や競技風景をデザインした切手が発行されるようになりました。特に、シドニーでは金メダリストが出るたびに、翌日には切手が発行されていたようです。最近では、切手本体ではありませんが自分の顔写真などを切手シートに印刷するサービスが日本でも行なわれています。

クロアチアは、旧ユーゴスラビア時代からハンドボールの盛んな国です。本年2月に行なわれた世界選手権（ポルトガル）では、クロアチアとして初優勝しました（オリンピックではアトランタで優勝）。これを記念して、優勝後の集合写真が4枚セットの切手になってミニシートが発行されました。発行枚数は100,000セット。

【11月の行事予定】

【大会】
11月4日(火)～8日(土)　全日本学生選手権大会（青森市）
11月8日(土)～30日(日)　日本リーグ（各地）

【会議】
11月8日(土)　常務理事会

HAND BALL CONTENTS Nov

組織化・国際化・勝てる集団作りのために………平岡秀雄　1
アテネオリンピックアジア予選：神戸　………………………… 2
　残念、一歩届かず、しかし確かな手応え
第8回ジャパンオープントーナメント…高橋　登／三郷市国体推進室／大谷和彦　7
第44回全日本実業団先取権大会を振り返り………粟屋敏則　10
第54回全日本高等学校選手権大会
　……………河先　修／石塚大河／井上亮一・大崎俊一　12
第30回全国高等専門学校選手権大会……四宮一郎／藤本巳由紀　16
フリースロー：役割分担で強力指導体制を………早川文司　18
NTS2003報告　ブロックトレーニングを終えて　……栗山雅倫　19
第28回日本ハンドボールリーグ日程表……………………………20
五大都市体育大会半世紀の歴史に幕………………小西博喜　21
平成15年度第6回ハンドボール研究集会……佐藤　靖・村山明夫　22
スコアールーム：全国クラブ選手権／全日本ビーチ選手権／全日本事業団選手権／
　全国高専大会／ジャパンオープントーナメント…………………………23
協会だより…………………………………………………………………27
「10万人会」9月会員／切手に見るハンドボール(2)／ ………28
11月の行事予定／もくじ
（登録チームの購読料は登録料に含む）

2003コートの主役

PKCH3-AD　　¥4,600

検定球3号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・男子用
天然皮革

PKCH2-AD　　¥4,500

検定球2号、アデランテ、手縫い
国際公認球、一般・大学・高校・女子用・中学校用
天然皮革

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四四五号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十五年十月二十六日印刷
平成十五年十一月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 三四八一―二三六一
〇〇一二〇―七―一〇一九三

編集兼発行人 大西武三

定価 年間三三〇〇円